

公立大学法人 滋賀県立大学

スチューデントファーム

# 「近江楽座」

まち・むら・くらしふれあい工舎

2012年度 活動報告書

# はじめに

## 地域活動の想い

2004年から始まった近江楽座がとうとう10年目を迎えた。昨年も23のプロジェクトが、県内の地域はもとより県外にまでおよび、その活躍が広く知れ渡ることとなった。よそ者であり素人の学生たちを受け入れてくれる地域もごく当たり前のことのようにつきあってくれている。東日本大震災以降、日常生活の大切さや、日常に潜む豊かさを皆が気づき始めている。今ほど、人と人のつながりの大切さを感じている時はないだろう。

人々の社会活動にゴールはない。そこに参加して日々の営みとして活動の一員になり、謙虚な姿勢で学んでいく。手探りで工夫しながら自分たちで問題に立ち向かっていかなければならない。地域は教えてもらえるところではない。教室で配られる資料と授業で学んだと満足してしまうような姿勢では受けとめてもらえない。地域の主体性を尊重することは、学生たち本人の主体性への尊重にもつながっていく。貢献などという言葉はあとから着いてくるものだ。地域の願いや日常をつぶさに感じることができ、社会人として育っていくことが本学の教育プログラムとしての近江楽座の願いだ。そのために自分で学ぼうとするモチベーションを地域活動の中からつかみ取っていく。これこそ、人が自分で育つ大学という本学の開学からの理念だ。

昨年7月には皇太子殿下が本学に行啓され、近江楽座の活動をご視察された。各プロジェクトの代表学生の声に耳を傾けられ、プロジェクトでの苦労した点などのご質問をいただくとともに、たくさんの励ましのお言葉をいただいた。また、11月には近江楽座の活動が、滋賀県からの推薦を受け、内閣府特命担当大臣表彰（子ども・若者育成支援部門）を受賞した。多くのメディアでも取り上げられ、社会での評価が高

まっている。学生たちにとっては地域で必要なこと、課題にむけてただ当たり前のことをやっているという素直な意識なのだ。しかし評価されることで学生たちは活動へのモチベーションをますます高めている。そして社会に注目されることで、地域が望んでいること、必要なことをさらに深く考えるきっかけとなっている。

10年の節目として、改めてこれまでの活動を振り返ることも必要だ。地域のなかで学生たちの活動がどのように受けとめられているのか、成果をどのように記憶されているのか。これからも新たな活動が続々と生まれていく。静かに閉じる活動もあるだろう。学生たちの活動の痕跡に目を向けよう。多くのひとが同じ想いを抱き始めた近江楽座という大きな流れのアーカイブを残していかなければならない。

平成 25 年 12 月  
近江楽座専門委員会委員長

印南比呂志  
(人間文化学部 生活デザイン学科)







## 1 近江楽座について

## 1-1 近江楽座とは

滋賀県立大学の“ スチューデントファーム「近江楽座」- まち・むら・くらしふれあい工舎-”は、地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する。」を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラムです。

平成16年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組み支援プログラム(現代GP)」に採択され、平成18年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取り組みとして学内外で高く評価されました。そして、翌平成19年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、平成24年度までの9年間で延べ 207 のプロジェクトが活動してきました。これまでに培ってきたノウハウや地域との繋がりを活かし、多彩な活動を展開しています。

### 教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

### 3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局(地域共生センター)の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

#### 活動助成システム

“ スチューデントファーム「近江楽座」 ”として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

#### コンサルティングシステム

教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

#### 地域「知」のリソースシステム

大学と地域連携に係わる情報を他大学、研究機関、行政、NPO 団体などと共有化・活用するためのデータベースを構築し、活動をサポートします。

#### <3つのサポートシステム>



#### <サポートシステム概念図>



## 1-2 プロジェクト区分

平成19年度より、「地域活性化への貢献」をテーマに学生主体の地域活動を行う「Aプロジェクト」に加え、新たに、自治体や企業等から提示された課題について、学生主体のプロジェクトチームを結成し活動する「Bプロジェクト」がスタートしました。

### | Aプロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

昨年度までの継続活動を対象とした①「継続プロジェクト」、新規活動を対象とした②「新規プロジェクト」、さらに平成23年度から新たに③「Sプロジェクト」として、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクトで活動資金の助成を必要としないプロジェクト、の3つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

### | Bプロジェクト

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題について、「近江楽座」として取り組むテーマを設定し、学生主体のプロジェクトを募集します。学生チームにはテーマに対する企画提案を求め、採択されたチームは、指導教員と地域共生センターがフォローし、依頼先と共同で取り組みます。

#### Aプロジェクト

「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト。

#### 継続プロジェクト

Sプロジェクト（平成23年度より開始）

活動資金の助成を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指す取組み

#### 新規プロジェクト

#### Bプロジェクト

学生主体のチームが自治体や企業等から提示された課題に、プロポーザル方式で企画提案を行い、選定されたチームと依頼先とが共同で取り組むプロジェクト（平成19年度より開始）

## 1-3 プロジェクトの採択について

### プロジェクト募集期間

A プロジェクト

日 時：2012年4月10日(火)～4月27日(金)

### 募集説明会

A プロジェクト

日 時：2012年4月10日(火) 12:30～13:00

会 場：講義室 A4-107

### 応募件数

A プロジェクト

27 チーム うち継続プロジェクト 21 件

(S プロジェクト1件含む)、新規プロジェクト 6 件

### プロジェクト審査

A プロジェクト「公開プレゼンテーション・審査会」

日 時：2012年5月19日(土) 9:00-16:00

会 場：講義室 A3-301

内 容：プレゼンテーション(プレゼンテーションシートによるプロジェクト説明)および質疑応答、審査(非公開)

選定委員(順不同 敬称略)：

- |                                    |       |
|------------------------------------|-------|
| ○滋賀県立大学理事・副学長                      | 仁連孝昭  |
| ○滋賀県立大学環境科学部准教授                    | 近藤隆二郎 |
| ○滋賀県民活動生活課参事                       | 倉本正樹  |
| ○特定非営利活動法人 HCC グループ代表<br>まちなか交流館館長 | 浅野智子  |
| ○半月舎舎主                             | 上川七菜  |

### 採択および採択通知

A プロジェクト

日 時：2012年5月24日(木)

通知方法：近江楽座ホームページ

および学生ホールの掲示板にて通知

### 採択件数

A プロジェクト

23 チーム うち継続プロジェクト 18 件

(S プロジェクト1件含む)、新規プロジェクト 5 件

### 活動説明会

A プロジェクト

日 時：2012年5月31日(木) 12:30～13:00

会 場：講義室 A4-107

内 容：活動全般にあたっての注意事項、事業計画、会計処理等の進め方に関する説明会

近江楽座は、  
県大生の地域貢献活動を応援する  
教育プログラムです。

2012年度  
近江楽座  
プロジェクト募集開始!!

募集期間 2012.4.10-27  
審査会 2012.5.19  
（公開プレゼンテーション）  
詳細は近江楽座HPにて <http://hokomrakusa.com/>

募集説明会ありです!  
2012.4.10 thu 12:30-13:00 講義棟 A4-107

<公開プレゼンテーションの様子>





## 2 各プロジェクトからの活動報告

### 2-1 活動実績報告

01	Shiga 食育推進プロジェクト	12
02	あかりんちゅ	14
03	内湖の侵略的外来種駆除	16
04	菜の花エネルギー	18
05	cococu -おうちの暮らししかたろぐ-	20
06	Taga-Town-Project	22
07	とよさだプロジェクト	24
08	ART FORUM 2012 DIG'S.	26
09	木興プロジェクト	28
10	あづちのえきづくり	30
11	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト	32
12	地域博物館プロジェクト	34
13	おとくらプロジェクト	36
14	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-	38
15	信・楽・人 -shigaraki field gallery project-	40
16	ほたてあかりプロジェクト	42
17	一姓	44
18	バンディラ・ジ・オウロ(金の旗)	46
19	人々とのふれあいを通じてその人らしい生き方を志向する 未来看護塾	48
20	七曲りでいっちょやったるか!	50
21	とよさと快蔵プロジェクト	52
22	たけとも - 竹の会所 友の会 -	54
23	喫茶ラリルレトロを核にした子ども商店街への展開	56

次ページ以降のチームデータについて補足説明

※近江楽座活動年度について

H : 不参加

H : 参加

を示しています

※メンバー数は、活動に関わった学生の総数です。

# 01 Shiga 食育推進プロジェクト



## 食育で滋賀をもっと元気に！

食やデザインに関する専門知識を活かした食育活動をしています。大学・地域・行政が三位一体となった食活動を目指し、栄養教育、地産地消の観点からの親子での農産物収穫体験など幅広く活動を行っています。

### TEAM DATA

チーム名：県大地域食育推進隊

代表者：中村絵里（人間文化学部）

メンバー数：約70名

指導教員：岡本秀己、佐々木一泰（人間文化学部）

活動場所：大学、彦根市、滋賀県内

関係団体：ひこね食育推進隊、彦根市教育委員会、平和堂等

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

- (1) nakaniwa café
- (2) ひこね食育フェア



食育フェア・ステージ (06/16)

★見出し写真：食育フェア (06/16)

- (3) 連続食育教室の支援
- (4) 元気フェスタ
- (5) 平和堂 (5A DAY)



平和堂 5A DAY(11/05)

- (6) 高齢者施設での骨密度測定
- (7) 冬野菜収穫体験

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年の成果としては、昨年度に引き続き大学や地域また、各種の団体と連携して様々な食育活動を行った事である。地域の食育を進めて行く上で、継続して行くことの大切さを改めて感じている。食育フェアや nakaniwa café、高齢者施設での骨密度測定においては、毎回楽しみにして下さっている方がいる。そういった方々に今後も継続して、食育活動を行い、健康意識を高くもってもらえるようにしたい。

また食育活動を通して、地域の方と触れあう機会を多く持たせることも成果と言える。実際に大学の外に出て地域の方や子ども達と交流し、活動することで、大学の講義では学べないことを学ぶことが出来た。また、大学で学んだことを実際にどのように生かしていけるかを、自分達なりに考えて実践することができた。

さらに、とよさらださん、未来看護塾さん、ハーモニーさんなど近江楽座の団体とも一緒に活動することが出来た。コラボレーションすることで、1つのプロジェクトでは出来ない、幅広い活動が出来たと考える。

さて、今年度からは、生活栄養学科全体としての活動として県大食育推進隊を進めてきた。4回生・3回生の継続的な参加や、今までなかった、多くの1回生の参加が見られた。一方、2回生の参加がほとんどなかった事、参加者に偏りが出てしまったことは反省点である。今後呼びかけをすると共に、一緒に活動してみたい!と思えるような、より魅力ある活動を出るようにしたいと考える。

これからも、学生を中心として彦根食育推進委員会、平和堂さん、大学の生協さん、栄養士の皆様、近江楽座の他団体などとの連携も取っていき、大学・地域・行政とが一体となって食育活動を継続・推進していきたい。

## 活動を通して学んだこと

食育というのは、地域や行政と協力し合って社会全体で継続的に行うことによって地域の人々により浸透していくものであるということが分かりました。活動を通してたくさんの人々と触れ合う中で、私自身も成長することができました。連携し合うことで、よりよい食育を行えることを学びました。

中村絵里（生活栄養学科4回生）

食育推進隊として、地域や大学の方と連携して食育活動を行うことで、とても充実した大学生活を送ることが出来ました。実際に大学や地域で、自分達で考えて活動することは、大変な事もありましたが、とても楽しかったし、多くの事を学び、経験することができて良かったです。

中橋沙季（生活栄養学科4回生）

県大地域食育推進隊での活動を通して、計画を実践することの難しさ、また連携の大切さを学びました。地域や行政の方々、また生活栄養学科1～4回生のスタッフの協力のおかげでできた活動だと思います。これらの活動で得た経験を、これからも活かしていきたいと思います。

中川菜摘（生活栄養学科4回生）

## 地域の方のコメント（抜粋）

株式会社平和堂 CS 推進部 岡井真也さん

昨年12月に実施した「冬野菜収穫＆親子料理教室」では、食育推進隊のみなさまが多数参加してくれたおかげで、白菜の収穫と料理教室を大成功に終えることができました。食育クイズは、参加されたご家族にとっても好評でした。

彦根食育推進課 宮尾 智香子さん

「県大地域食育推進隊」による活動は、参加者にとっては大変興味深いものばかりで、活動が参加型になっていることもあって、楽しく参加ができ、食育への関心が高められる取り組みです。

## 指導教員より（抜粋）

人間文化学部 生活栄養学科 岡本秀己

本年も昨年同様、彦根市地域を主たる活動場所として、様々な食育活動を実施してくれました。最初は本学の学生に対する「骨密度測定」から始めた活動でしたが、行政や地域と協働した活動として、どんどん広がってきていることは、生活栄養学科学生1～4回生の自分たちがめざす管理栄養士、栄養教諭に対する職業意識の高さと、自分たちができること社会貢献をしたいという強い思いがあったからこそだと思います。また、地産地消では彦根梨を手配いただいた稲枝商工会、nakaninwa café では、本学生協木下様、栄養士会の皆さま、平和堂、彦根市教育委員会など多くの他団体に支援を受け、そこで行った様々な活動は、学生達にとって、学内だけでは経験できない貴重な体験になったと思っています。今後管理栄養士をめざして勉学を続けていく中で、大きな財産となることを確信しています。このような活動は継続が重要です。また、学生同士で新しい食育活動の方法を考え、県大らしい地域とのつながりをもってもらいたいと思っています。

DELIVERABLE

成果物／制作物



nakaninwa cafe ポスター



骨密度測定冊子



## リサイクルキャンドルでスローな夜を

寺院等で使われなくなった残蠟でリサイクルキャンドルをすることで、キャンドルナイトイベントを環境的な意味を付加したイベントにし、リサイクルの姿勢を伝えながらエコでスローな夜を提案しています。

### TEAM DATA

チーム名：あかりんちゅ  
 代表者：福川萌子（人間文化学部）  
 メンバー数：25名  
 指導教員：近藤隆二郎（環境科学部）  
 活動場所：大学、彦根市、近江八幡市、滋賀県内  
 関係団体：ひこねキャンドルナイト実行委員会  
 近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

### PROJECT

### 実施事業

- (1) 山ほたるパーク&ウォーク  
★見出し写真：うの家キャンドルナイト (06/09)
- (2) 湖風夏祭キャンドルナイト
- (3) サマーキャンドル販売
- (4) 長浜あかりみち
- (5) 小泉町キャンドル作り教室



小泉町キャンドル作り教室 (8/26)

- (6) ひこねキャンドルナイト



ひこねキャンドルナイトハンドベル演奏 (11/04)

- (7) 湖風祭キャンドルナイト&キャンドル販売
- (8) ヨツマルシェ
- (9) 語りと音と灯りのこらぼ
- (10) エトコロキャンドル作り教室
- (11) 残蠟回収、技術提供

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年で4年目のあかりんちゅは、チームとしての活動の基盤を作ることが出来た1年だと思います。各メンバーが班に分かれる新体制で活動を行い、ひとりひとりに役割を任せることで責任感を持ち、活動に取り組みました。また、各活動で計画をたてスケジュールの管理をし、活動後は報告書の記入、ブログの更新という一連の流れを作ることによって、活動をスムーズに実施することができ、報告書の記入により活動をみにつめ直すことで反省点を次の活動に活かし、よりよい活動が実施できたり、来年度以降の継続的な活動につながる軸をつくりました。

3年間の活動の積み重ねが実を結び、新たな地域、イベントで活動ができたり、皇太子殿下に活動紹介をするという貴重な経験ができました。また、国際ソロプチミスト彦根さまより活動に対して表彰をいただくことが出来ました。

申請時に掲げた今年度の新たな取り組み、「地域でのキャンドル販売」は、地域のイベントでの販売を積極的に実施することができ、おとくら、Dig'sでの委託販売をスタートさせることが出来ました。今後さらに力を入れて地域の方にリサイクルキャンドル、キャンドルナイトを知っていただき、エコでスローな夜を広めたいと思っています。

「あかりんちゅ主体の地域でのキャンドルナイト」は、前期の段階で今年度実施することは困難だと判断し、他の活動の充実にも力を注ぎました。今後は、まず活動の拠点探しという課題を解決し、目に見える目標を明確に持ち、それに向かって躍進したいと思います。また、5月には歴代メンバーのOB・OG会を実施し、活動報告や交流を行い、OB・OGとの継続的なつながりを持ち、活動していきたいと思っています。

## 活動を通して学んだこと

イベントの際、準備しているときなどに興味を持っていただいた人たちから「大変だね」「綺麗だね」など声をかけてもらうことができます。また、キャンドルの点灯を手伝いたいと言ってくれる人たちもいました。このようなちょっとした出会いにより、「人とのつながり」を感じることができました。

柴田光 (電子システム工学科 2 回生)

彦根キャンドルナイトや 3.11 キャンドルナイトなどの活動を通して、こういったイベントは地域の人、団体などの多くの人の協力があるからこそできるものだと思います。協力が得られるのはあかりんちゅ初代から地域の方とのつながりを大切に、信頼関係が築けているからこそだと思います。

白井麻葉 (環境政策・計画学科 2 回生)

学生が主体となって地域、環境のための活動を行うあかりんちゅに魅力を感じ、今年から参加しました。しかし 1 年間活動に参加して感じたのは、私たちの活動は、外部の方々のたくさんの支えがあって成り立っているということです。地域の期待に応えられるよう、これからも頑張っていきたいです。

酒井美知 (環境政策・計画学科 2 回生)

活動を自分たちで考えて行うことの大変さを実感すると同時に楽しさや達成感も感じることができました。特に商品用のキャンドルを試行錯誤しながら作成したり、キャンドルナイトの準備で臨機応変な対応が必要となったときにこのようなことを強く感じました。

堀井美里 (生活栄養学科 2 回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

夢京橋あかり館 藪田 清さん (キャンドルナイト事業共催者)

7 回目を迎える「ひこねキャンドルナイト 2012」を 11 月 4 日に開催しました。今回は初めて、実行委員会主催ではなく夢京橋商店街振興組合の冬の集客事業に協力する形で取り組みました。今回、特筆すべきは事業の中心となる全体設計をあかりんちゅが全てやり遂げたことです。また「3・11 つながろう東北へ ひこね実行委員会」と協力して 3 月 11 日の追悼キャンドルナイトを護国神社で行い、あかりんちゅが中心的役割だった事は頼もしい限りです。老婆心ながらイベントの最初から最後までグループ全員でしっかり締める事の大切さと礼儀を学んで下さい。必ず役に立つ時が来ます。

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部 環境政策・計画学科 近藤隆二郎

今年度のあかりんちゅは、組織マネジメントがかなりうまくいった印象があります。とくに、業務報告的な仕組みをつくったのは、今後の引き継ぎストックとして高く評価できます。

キャンドルナイト依頼やキャンドル教室など、外部委託にどう対応するか、またその手配調整と実施までの担当割りなども、だんだんと慣れてきたように見えます。商品開発における楽しさもブログの可笑しさも、あかりんちゅらしさを発揮して楽しく動けたことと思います。それがソロプチミスト彦根さんからの表彰や皇太子殿下へのプレゼンにもつながったのだと思います。

課題としては、全体としての長期的な目的・ビジョンをあらためてしっかりしておくというように思います。外部から依頼があって動くのではなく、目的をもってこちらから働きかけるような動きがあるとふりまわされなくなります。また、拠点場所探しという重い課題もありますが、これもあかりんちゅの脱皮ステップとして前向きにとらえてほしいと思っています。

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



キャンドルナイト ポスター



サマーキャンドル (かき氷) と  
ドーナツキャンドル

## 03 内湖の侵略的外来種駆除



### 守ろう！琵琶湖の生態系！

ブラックバスをはじめとした侵略的外来種は在来種を捕食・駆逐して、日本固有の水辺の生態系を壊しています。私たちは、在来種にとって棲みやすい環境をつくりたいと考え、駆除や啓発などの活動を行っています。

#### TEAM DATA

チーム名：滋賀県大 BASSER'S

代表者：曾我部共生（環境科学部）

メンバー数：20名

指導教員：浦部美佐子・野間直彦（環境科学部）

活動場所：琵琶湖、彦根市神上沼

関係団体：全国ブラックバス防除市民ネットワーク

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

#### PROJECT

#### 実施事業

- (1) 神上沼における侵略的外来種駆除
- (2) 外来魚駆除釣り大会



外来種駆除 (4/26)

- (3) お魚探検隊  
★見出し写真：お魚探検隊 (10/21)
- (4) 水土里ふれあい体験イベントにおける生き物学習会（愛西土地改良区主催）



生き物学習会 (6/17)

- (5) 湖風祭でのブラックバス模擬店出店

### 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は神上沼における定期的な外来魚駆除活動だけでなく、地域への啓発活動にも力を入れた。新たなイベントを企画・運営していくことはメンバーにとって負担となったが、皆で協力し合い、一丸となって取り組むことができた。様々な企画に挑戦し、運営してきた原動力は、それぞれの興味・関心であったように感じている。各メンバーの得意分野を活かした活動となった。今年度は予定事業以外の活動が外部から依頼されることもあり、予定事業に十分に力を注げなかった。今後はメンバーで話し合いを重ね、事業ごとに投入努力量を振り分けていく必要がある。

神上沼での定例会だけでは自己満足の活動に終わりがねないが、身近な水辺で起きている外来魚問題について、積極的に地域へ発信することで、地域とともに活動を展開することができた。さらに、学生が大学で学んでいる専門知識や環境問題へ向き合う意識などを、活動を通して地域に還元することができたと考えている。地域の子どもを対象としたイベントを定期的で開催することで、地域の中で我々の活動が徐々に浸透してきたように感じている。これからも地域と連携して地域の自然環境を守る活動を続けていきたい。

滋賀県大 BASSER'S は、神上沼周辺地域において、子どもたちに自然と触れ合う機会を提供できる環境コーディネーターのような立場になりたいと考えている。そのために、構成メンバーの意識や活動意欲の向上、自然科学分野における知識の蓄積、野外活動における技術の習得が必須である。また、学生団体の最大の課題として、世代交代が挙げられる。ただ単にこれまでの活動を引き継ぐだけでなく、積極的に新たな取り組みにも挑戦してほしい。

## 活動を通して学んだこと

今年度の活動では啓発活動に力を入れた。イベントでは、地域からより多くの人に参加してもらえるように自治会との打ち合わせを重ね、土地改良区とも協力して企画運営に努めた。学生の活動を地域に浸透させて、人々を巻き込んでいくプロセスを、実践を通して学ぶことができたと感じている。

曾我部共生 (環境生態学科 3 回生)

活動も 2 年目となり、全てが手探りだった 1 年目よりも効率良く活動を展開することが出来たと思う。前年の良い所は引き継ぎ、反省点は改善し、団体として大きく成長出来た 1 年であった。特に水生生物観察会やお魚探検隊といった、在来魚に関するイベントにも力を入れて取り組めて良かった。

岡本健吾 (環境生態学科 3 回生)

前年度の結果を存分に生かし、効率のいい駆除活動ができたと思います。また、お魚探検隊など新たな地域との交流もでき、活動の幅を広げられたのではないかと思います。来年度は、今年度の活動を礎に、さらに活動の幅を広げていくことに期待します。

小島翼 (生物資源管理学科 3 回生)

今年度の活動では啓発活動にも力を入れ、イベントなどで地域の方に接する機会がとて多かったように感じた。様々なイベントの中で、地域における信頼度も深まった。課題としては、自分自身に知識不足を感じる場面が多くあったので、チーム内での知識の提供、共有の機会を増やしていきたい。

北野大輔 (生物資源管理学科 1 回生)

## 地域の方のコメント

薩摩町自治会長 村井光雄さん  
(イベントの広報面、神上沼での船の係留場所の確保などご助力頂いた方)

私自身はイベントへの参加はできなかったが、地域の子ども会を通して協力できました。地域から学生さんの主催するイベントに参加する子どもたちもおり、よかったです。

今年度も滋賀県立大学の学生さんは活発に活動されておられました。また、今年度からは船も使って活動をされており、船の係留の際にはこちらとうまく体制を作ってくれたと思います。これからも船を使ったり、イベントを開催したりして、これまでのように頑張って活動してください。

## 指導教員より

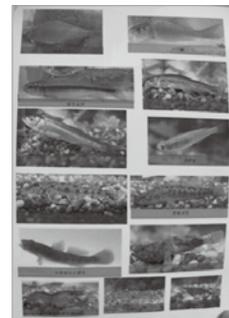
環境科学部 環境生態学科 浦部美佐子

琵琶湖周辺で県や民間団体とよい協同体制を築いており、神上沼での駆除成果も上がっていることで、ここまでは大変うまくやってきたと思います。外来種駆除には継続的な取り組みが必要なので、学生団体として、これからうまく世代交代ができるかどうかポイントになると思います。1、2 回生が自ら主体的に関われる体制となるよう、工夫して頑張ってください。

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



2012 年度活動報告書



お魚探検隊イベントで配布したお魚図鑑

# 04 菜の花エネルギー



## 菜の花から始まる資源循環の輪

菜の花を休耕田で栽培し、取れた菜種油からバイオディーゼル燃料を作ることによって資源循環型社会の普及を目指しています。また、小学生や高校生へのエネルギー教育講座を実施し、理科の楽しさを伝えます。

### TEAM DATA

チーム名：菜の花エネルギー  
代表者：坂口裕紀（工学研究科）  
メンバー数：約 22 名  
指導教員：山根浩二、河崎澄、近藤千尋（工学部）  
活動場所：大学、彦根市内  
関係団体：菜の花館  
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 菜の花栽培



菜種搾油 (09/11)

### (2) 環境教育授業



若葉小学校出前授業劇 (06/07)

### (3) 工学部棟ひまわり栽培

★見出し写真：菜種刈取り学内畑 (06/01)

### (4) 「第 9 回菜の花学会・楽会 in 東近江」参加

### (5) びわこ毎日マラソントtent村出展

## 1 年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

菜の花栽培は収穫量は昨年度に劣るものの、菜種油を精製し、農家の方との天ぷら会やびわ湖毎日マラソンで使用し、廃食油を回収、その廃食油を原料にバイオディーゼル燃料をつくり、栽培やイベントに使用する資源循環が実践できた。今後も菜の花を通じた資源循環を実践し、さらに収穫量も安定するよう農業の知識も深めたい。また今年度はヒマワリを栽培し、活動アピールと畑の活性化につなげることができた。

今年度は多くの団体とのつながりが持てた。申請時は他団体との活動予定はなかったが、1年間で、近江楽座の団体（とよさらだ、とよさと快蔵プロジェクト、バイテイラ・ジ・オウロ）や菜の花学会における他の菜の花プロジェクトの団体との交流など多くの団体と関わることができた。今年度も学内、学外問わず、つながりを持つことで活動の幅を広げていきたい。

環境教育授業に関しては、授業のベースを変えることはなかったが、継続的に実施できた。今後は、「親子で参加できるイベント」に発展させていきたい。

菜の花エネルギーは、継続プロジェクトであり、毎年本学から助成金を頂いて活動しているが、本学の助成金に頼らず外部から資金を獲得できる団体にしていきたいと考えている。今年度は、平和堂が主催で環境団体を募集し支援する「夏原グラント」に応募したが、採択されなかった。今後も、外部資金を獲得し自分たちで持続的に活動していくためにも、チャレンジを続けたい。

## 活動を通して学んだこと

近江楽座の活動を通して小学生や高校生、また農家の方々といった様々な人達と交流してきました。自分たちの活動を通して、いろいろな人達が笑顔になってくれることがとても嬉しかったです。今まで地域活動をあまりしたことがありませんでしたが、地域活動の楽しさを学ぶことができました。

畑中亮二 (工学研究科機械システム工学専攻 1 回生)

全小学校への出前授業、菜の花の栽培、地域の人たちとの交流など、近江楽座によって、普通の大学生活では体験できないことが体験でき、大変充実し、コミュニケーション能力など、人として成長できた一年を過ごせました。

杉本尚哉 (工学部 4 回生)

菜の花エネルギーの活動に参加することで、地域の方々と接する機会が多く、さまざまな年齢の方々と触れ合うことができ、新しい価値観を得ることができました。また、バイオディーゼルについてたくさんの人に理解を深めてもらって大変嬉しかったです。

青木雄彦 (工学研究科機械システム工学専攻 1 回生)

菜の花エネルギーの活動を通して、地域の方や小学生とふれあうことができたのは貴重な体験でした。また、菜の花を栽培するのが重労働で、実際にバイオディーゼル燃料を作成することは難しいと学ぶことができました。さらに、皇太子殿下に拝謁させていただく機会もあり、大変勉強になりました。

近藤大地 (工学研究科機械システム工学専攻 1 回生)

## 地域の方のコメント

休耕田所有者 吉島利博さん

毎年メンバーが代わり大変だと思うが、もっと工夫することで効率よく農作業ができると思う。現在の畑作業に使う機械はこちらで準備しているが、雑草の除去や菜種の刈取りに使用する草刈機をできれば2〜3台準備してもらえるとありがたい。今後も学生さんには農作業を通してやりがいを感じてもらえればと思う。天ぶら会は好評で、毎年みんな楽しみにしているので、他の交流もあればぜひやってもらいたい。

彦根市立若葉小学校 4 年生担任 山本先生・松永先生

分かりやすく、楽しく教えて頂きありがとうございました。子ども達が大変喜んでいました。また機会があれば来て頂けると嬉しいです。

(小学校出前授業での小学生のアンケートから抜粋)

- ・温度差で発電できるとは思いませんでした。また来てください。
- ・菜の花が二酸化炭素を吸ってくれることを初めて知りました。もっといろいろな実験をしてみたいです。
- ・劇や実験の説明が分かりやすく、いい勉強になりました。

## 指導教員より

工学部 機械システム工学科 山根浩二

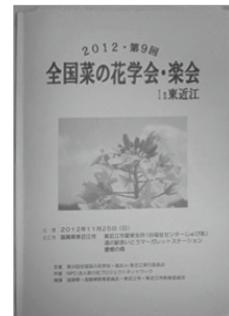
この1年間、学内に植えた菜種の収穫やその後ヒマワリを作付けし収穫するなど、年間を通してエネルギー作物を栽培することに成功したことや、小学校出前授業のほかに、なかなか言葉に苦労したと思われる地元のブラジル人学校でも同様の授業が行えたことは今後の展開が期待できる成果と思う。また、菜の花学会・楽会に参加し、このチームの起源である「菜の花プロジェクト」に係わる人たちの意気込みを感じたことと思う。なお、今後、このチームの活動がクチコミだけの広がりには留まらず、多くの人に知ってもらうためにPRも必要と思う。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



菜種油



菜の花学会報告書



## 滋賀の暮らしの魅力を伝える

『cococu - おうみの暮らしかたろぐ』は、滋賀の暮らしの魅力を伝える雑誌です。滋賀県全域を対象に、企画・取材・編集を行い、観光雑誌には載っていない“滋賀ならではの日々の暮らしの一片”を伝えていきます。

### TEAM DATA

チーム名：cococu - おうみの暮らしかたろぐ

代表者：荒川希美（人間文化学部）

メンバー数：11名

指導教員：印南比呂志（人間文化学部）

活動場所：滋賀県内

関係団体：---

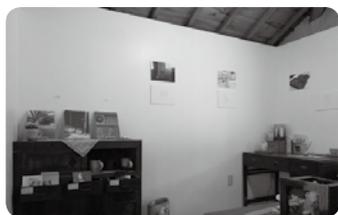
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

- (1) cococu vol.4 制作・発行  
★見出し写真：湖北取材(07/31)

- (2) cococu 展・ワークショップ



cococu 展 in 信楽 Ogama(04/13-05/10)



ガリ版ワークショップ(04/13)

- (3) リトルプレス・ZINE 展への参加

- (4) 番外編 co-cococu 制作

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

2013年3月、一年間の活動の集大成となる『cococu - おうみの暮らしかたろぐ』vol.4が刊行された。琵琶湖をぐるりと囲むそれぞれの土地の、それぞれの魅力を探るべく、滋賀県全域を活動場所とし、各地へと取材に赴いた。ほとんどのメンバーにとって、初めての経験となる雑誌制作。全てが手探りながら、何事もまずやってみる!という気持ちで、各取材先を訪れた。記事執筆やレイアウトなど編集作業は大変だが、メンバー自身が楽しみながら、取材を通じて感じた“滋賀”をいかに読者に伝えるかを考えて作業にあたった。

昨年度からの持ち越しとなった cococu 展では写真パネルと伝統産品を展示し、雑誌とはまた異なる表現で滋賀の暮らしを伝えた。また、cococu 展と合わせて開催したワークショップがきっかけとなり、『東京蚤の市』というイベントにてガリ版ワークショップを行うこととなった。滋賀県にまつわるものを実際に見たり触れたりしてもらうことで、より魅力に触れる体験となったと感じている。

また計画には無かったリトルプレス展・ZINE 展へも参加し、徳島・姫路にて、展示販売通じた広報活動を行った。このようなイベントに参加することで、各地の地域雑誌・小冊子を知る機会と、地域に関わる人々との交流を深める貴重な場が得られた。

前年度同様、雑誌の制作と並行して行ってきた広報・営業活動の効果もあり、各地の書店や図書館から取り扱いたいという声がかかるようになった。『cococu - おうみの暮らしかたろぐ』創刊から4年、地道に活動を続けてきた成果がじわじわと広がってきている。今後も発行を重ね、身近にある滋賀の暮らしの魅力を記録し、伝えていきたい。

## 活動を通して学んだこと

cococuの制作を通して今まで知らなかった“滋賀”を知ることが出来ました。地域の魅力とは何かを考え、何気ない日々の豊かさが伝わるようにと文字一つにも気をつけて編集することを心がけました。大変ながらも楽しい作業でした。

谷涼香 (生活デザイン学科 3 回生)

コラムや徒歩タビの地図のイラストを担当しました。テーマである『あそび』の雰囲気を出すために粘土で人形を作り、写真イラストにするという作業は大変でしたが、とても楽しい経験でした。各メンバーが役割を全うし、一つのが出来上がっていくところが面白く感じました。

杉野仁美 (生活デザイン学科 3 回生)

cococuの活動を通じて滋賀の魅力をたくさん発見することが出来ました。楽しい誌面になるようにレイアウトを考えて、写真を選び、ありのままの素朴な滋賀の良さを届けようと作業をしました。メンバーが楽しんで活動したことが素敵に一冊に繋がったと思います。

西村愛 (生活デザイン学科 3 回生)

雑誌制作に関わるのは初めてでした。取材というかたちでお話を伺うのも、読みものと意識して文章を書くのも思っていた以上に難しいことでしたが、普通に聞いて書いていただければわからないことを、たくさん発見することが出来ました。

築山紗季 (生活デザイン学科 3 回生)

## 地域からのコメント (抜粋)

高島市朽木 フォトグラファー 尾崎正樹さん

編集長さんから取材の打診を頂いた時、確か「大丈夫？ 僕を、しかも特集で取り上げて…？」と切り返したように思いますが、さすがは自主運営のリトルプレス誌、僕の不安をよそに(笑)、取材に来て頂き、この度の vol.4 として刊行されました。これは色々な意味を含めて既存のマスメディアではかなり難しいことなのではないでしょうか(笑) お金やマス理論の影響が及ばない小さな体勢による純粋なテーマの追求…お金やマス理論を第一とはしない小さな地域やグループ…そんな両者の出会うところに何か大切なものがあるように思います。今まで見えてこなかったもう一つの湖国の姿を、僕たち読者に発信する cococu。これからも応援しています！

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



cococu vol.4

## 指導教員より (抜粋)

人間文化学部 生活デザイン学科 印南比呂志

cococuが目指してきた、おうみの日常の暮らしの魅力を伝えることが、今年ついに到達した思いだ。今回は卒業研究との連携で、ほとんど全ての写真が生活デザイン学科・松本咲さんによる撮りおろし。彼女の眼差しが cococu の空気をつくっている。イラスト担当の同学科・杉野さんのデザインテイストも本誌に暖かみを与えている。取材を担当した学生たちの姿勢も、地域の日常をしっかりと引き出している。

賞味期限のない日常を毎年一冊の冊子に封印して、おうみの暮らしアーカイブをストックしていると言える。それは、暮らしの魅力をひとつひとつ拾い上げていく活動でもある。学生たちが経験した一冊の雑誌の編集という作業は、一つのまち、一軒の家を計画することと同等の意味があったと思う。昨年からは小布施図書館や東近江図書館にも所蔵されている。少しずつ日本中に取扱店が増えている。

# 06 Taga-Town-Project



## 多賀の「ステキ」を探し・広める

Taga-Town-Project は多賀の素敵なおところを探し・発信する団体。一箱古本市の定期開催、多賀暮らし図鑑の取材・制作を通して見つけた魅力を発信してゆきます。温かい人、風情漂う町並み、多賀はとってもイイトコロ！

### TEAM DATA

チーム名：Taga-Town-Project  
代表者：藤原舞子（環境科学部）  
メンバー数：32名  
指導教員：松岡拓公雄、迫田正美（環境科学部）  
活動場所：彦根市、犬上郡多賀町多賀  
関係団体：多賀商工会、共栄会  
近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22** **H23**

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 多賀暮らし図鑑プロジェクト



色人北川さん打ち合わせ (06/03)

### (2) 八百秀アパートプロジェクト



一箱古本市 (05/26)

### (3) 広報プロジェクト

### (4) 多賀暮らしの教科書プロジェクト

### (5) まちのお祭りに参加

### (6) 休憩所の改修

★見出し写真：休憩所改修 (10/13)

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度を振り返ると、それぞれのプロジェクトで大きな仕事を長期間したり、定期的に活動をしたりと、チーム全体で常に動くことができていました。

多賀暮らし図鑑プロジェクトでは、湖東定住支援ネットワークから、依頼をいただいて移住を考えている人や田舎について知りたい人のために「多賀暮らしの教科書（仮）」という冊子を作成しています。知識と経験がなく大変なこともたくさんありましたが、良いものが出来そうです。多賀の様々な地区を取材させてもらい、今までよりも活動する範囲が広がったうえに、まちのひととの関わりも増えたことはとても良かったと思います。

また、八百秀アパートプロジェクトでは、ほぼ毎月イベントを企画していました。子ども向けのイベントや、他チームとの連携による展示会など、幅広く八百秀 201 でのイベントに取り組みめたと思います。

広報プロジェクトでは、今年度から毎月多賀の有線放送で担当番組を放送させていただきました。また、Facebook ページも開設しました。ローカルなものだけではなく、より広い範囲の人の目に留まりやすいツールにも取り組んでいくことが出来ました。その結果、多賀町商工会の方々から「e-モール多賀」への参加を呼び掛けてもらうことが出来ました。

反省点としては、常に動いていた分、各プロジェクトでスケジュール管理の甘さが目立ったことが挙げられます。それが、楽座予算の使い方にも出てしまいました。もっと余裕のあるスケジュール設定をしたり、メンバー全体で先のスケジュールの把握をしたりする必要があると感じました。

## 活動を通して学んだこと

TTPに参加するようになり、私の生活に一つ変化がありました。学生という同じ年代の仲間だけでイベントを企画し、外とつながるようになったこと。以前では考えられなかったことです。自分で何かを発信する積極性。TTPはそんな機会を私に与えてくれました。

嶋津有香 (生活デザイン学科1回生)

TTPの活動は、学生自身が楽しいと思えることを精いっぱいやることに意義がある。年長の方は皆、「若いうちに好きなことをやっておけ」とおっしゃいます。楽しいことには一生懸命になれる。一生懸命になれば良いものが出来上がる。TTPで楽しさを追求することの大切さを学びました。

阿部晴花 (地域文化学科2回生)

多賀の人々が私たちを必要として活動できることに意味があり、私はTTPでそれを目指したい。だから、今の自分ができていることは何か見つけて、それが多賀の人に役立てられたらと思う。できなかったとしても、そこから学べたら、それは次に生かすチャンスにしていこうと思う。

石見春香 (環境建築デザイン学科1回生)

## 地域からのコメント

多賀町門前町共栄会理事長 平居晋さん

多賀にTTPあり、といったカンジでしょうか。年を経るごとにだんだんと存在感をアップさせていますね。ただ、まだまだ馴染みのない方も多いと思いますので、多賀で過ごす時間ももっと増えるといいと思います。せっかくの「八百秀アパート」、もっともっと自分たちの居場所にすればどんどん楽しくなると思います。若い人たちの笑顔ほど、まちを元気づけるモノはありません。多賀のオモシロいコト、もっともっと見つけて、どんどん発信して行って下さいね。期待しています。ただ、学生の向こうでご指導されている方や、学校の存在が地域の中で見えて来ないのがあるのか、悪いのか…

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部 環境建築デザイン学科 迫田正美

八百秀アパートという拠点ができ、古本市や映画会など色々なプロジェクトを自主的に企画し、取組めたことは良い経験になっていると思う。広報活動の重要性に改めて気づけたことも評価したい。『多賀暮らしの教科書』の取材と編集の仕事を頂けたことは、暮らし図鑑プロジェクトが活動開始以来地道に取り組んできたことを評価していただけたのであり、新入生向けにillustrator講習会を適宜開催するなど、全員で協力して成果を表現し発信する力をつけようとする姿勢も大いに評価したい。

環境科学部 環境建築デザイン学科 松岡拓公雄

TTPは年を重ねて、活動内容が充実してきた。後進の学生へのリレーや連携もスムーズである。特に今年度は情報発信と広報も充実して来た。大きな動きとしてはNPO 湖東定住ネットワークからの依頼で「湖東暮らしの教科書」プロジェクトがある。これは全員で多賀編の取材と編集に勢力を傾けた。有線放送番組『TTP TIME』にも枠をもらい、まちのイベントには必ず参加し、しっかりとお手伝いをしながら、広報もあいまって住民の方々との交流を深め、歩調もあつてきた。活動としては熟成期に入りつつあるようだ。今後の活動も楽しみである。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



色人図鑑、多賀のぞき



一箱古本市ポスター

# 07 とよさらだプロジェクト



## 野菜で広がる、地域の輪。

犬上郡豊郷町で、耕作放棄された農地であるビニールハウスと露地を借り、野菜作りを行っています。地産地消の促進や無農薬野菜の提供、野菜作りの体験や地域とのつながりを目的として活動しています。

### TEAM DATA

チーム名：とよさらだ

代表者：岡祐助（環境科学部）

メンバー数：27名

指導教員：増田佳昭（環境科学部）

活動場所：犬上郡豊郷町

関係団体：NPO 法人とよさとまちづくり委員会

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 農家さんとお米づくり



朝市 (9/16)

### (2) ビニールハウスの張り替え



ビニールハウスのビニール張替え (6/24)

### (3) 皇太子さまご視察

### (4) 食育推進隊さんとの食育教室参加

### (5) 彦根市物産展参加

★見出し写真：収穫作業 (08/21)

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

本年度は、野菜の栽培面において失敗が多かった。収穫したジャガイモの保存方法が悪く腐らせたことがあり、勉強不足であったことが反省点である。私たちが活動する畑の近くには多くの農家が活動しており、最近では農家の方から声をかけてもらうことが多かった。栽培方法に関するアドバイスもあり、今後はこちらから積極的に意見を求めることが自身の成長につながると共に地域の方との関係を深める良い手段だと思える。

本年度行えたこととして、地域とのつながりを増やせた。昨年から引き続き豊郷町農家の古川さんと共に稲作を行った。また農家の森久仁彦さんとJA 職員の吉川さんの指導の下、ビニールハウスの張り替えを行えた。豊郷町役場の方々と共に地域野菜の栽培を行った。

また近江楽座内のプロジェクトと共同活動を行う機会が多かった。県大地域食育推進隊さんと共に子どもたちにミニトマトの収穫体験と調理実習を行った。滋賀県大BASSER'S さんから外来魚の魚粉をいただき大根栽培の生育実験を行った。一姓さんは大学そばの県大ファームにおいてサツマイモの栽培を行い、この活動をきっかけに来年度はボランティアサークル Harmony さんと、子どもたちを交えてジャガイモの収穫体験を行う予定である。また、とよさと快蔵プロジェクトさんが経営するタルタルーガにおいてとよさらだが栽培した野菜を料理に使ってもらい、地域の方や学生たちに活動を知ってもらう機会となった。

今後の活動としては、ビニールハウスと耕運機を一新したことで、更なる野菜の栽培技術の向上と、地域との密着である。地域との密着については、2013 年から活動場所である豊郷町の農家の方と共に、豊郷町の特産品である「坊ちゃんかぼちゃ」を栽培する予定である。こうして地域の方と関係を築くと共に地域の活性化に努めていきたいと思う。

## 活動を通して学んだこと

「売る」野菜を作り育てることの難しさを感じた。野菜の種を蒔き、芽が出て、間引きをし、大切に大切に大きく成長するまで育てる。ここまでにはひと苦労も二苦労もかかるが、「売る」野菜は見栄えが大きく関わってくる。味と見た目、この二つが伴って初めて「売る」野菜となる。活動を通して初めてこの困難さを感じた。

西村輝美（生活栄養学科 2 回生）

とよさらだの活動を通して、周囲の人々の理解と支援の上に、私たちの活動が成り立っていることを痛感しています。野菜が無事に成長し、収穫できることもあれば、うまくいかないこともままあります。これからも、新たな作物の栽培にどんどん挑戦していけたらと思います。

中嶋裕美（地域文化学科 2 回生）

とよさらだで学んだことは、野菜作りを通じた地域の人たちとの交流である。ビニールハウスの作業時に、隣の農家さんがいちごを下さったり、野菜の成長を見に来て下さる。もう一つ学んだことは、野菜を育てて売ることの大変さである。学生とはいえ見た目にもこだわった野菜作りをしている。

佐々木伸（環境生態学科 2 回生）

とよさらだの活動を通して、地域の方々やメンバー同士での意見交換をすることで、野菜の栽培方法や販売方法等で、様々な新しい工夫を生み出すことができること学んだ。また、自分達が育てた野菜を「おいしい」と食べて頂くことは、とても嬉しいことだと知った。

近藤千晶（環境生態学科 2 回生）

## 地域の方のコメント（抜粋）

豊郷町役場産業振興課 大塩恭平さん

とつとまつり、町民健康フェスティバル、彦根市物産展、町内農家との米作り等に参画、ご尽力いただいたことは豊郷町民および地域の活性化につながっています。若い力と発想は、行政や農家にとってもよい刺激になっているかと思えます。

今後についても、引き続き活発な活動をお願いいたします。具体的には、豊郷町特産品「坊ちゃんかぼちゃ」を町内農家と一緒に栽培する計画等があると聞いております。

## 指導教員より（抜粋）

環境科学部 生物資源管理学科 増田佳昭

とよさらだの活動で学べることは、次のような点だと思う。第1は人間の糧である食べ物を自ら作ることで、自然の不思議や栽培の難しさ、食べ物大切さを学ぶこと、第2は生産物を販売することで、コスト意識や販売方法など経済的な感覚を養えること、第3はグループメンバーの協力関係を作り上げてそれを自ら運営すること、第4は学生とは異なる地域の人たちと関わる中で自分達のコミュニケーション能力を高め、社会人力の形成に繋がること、第5はそれらをやり遂げて達成感と自信や誇りが得られること。

今年のとよさらだは、豊郷町役場と各種イベント、地元農家との関わり、直売所での販売、県大協同ファームを通じたイベントなど、外向きの活動が充実したのではないかと。またインターンシップの受け入れなど、後輩への指導にも努力を行った。皇太子殿下の来学時に活動内容を親しく報告したことも、自信につながったと思う。

来年度も、外向きの活動を充実するとともに、今年度取り組んだ野菜栽培における肥料の効果分析など、栽培内容についても意欲的に取り組んでほしい。

## DELIVERABLE 成果物／制作物



宣伝用ポスター



新入生歓迎チラシ



収穫物の調理、販売



## 近江八幡の魅力を掘り出そう！

近江八幡市を拠点に埋もれかけた地域の魅力を掘り出し、発信していくことを目標に活動しています。八幡山の自然をテーマとしたワークショップを行い、子どもたちに地元の自然や活動について知ってもらいます。

### TEAM DATA

チーム名：DIG'S

代表者：中本梨紗子（人間文化学部）

メンバー数：16名

指導教員：柴田いづみ（環境科学部）

活動場所：近江八幡市

関係団体：八幡山の景観を良くする

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) キッズ学芸員



キッズ学芸員間伐体験 (8/27)

★見出し写真：キッズ学芸員演奏練習 (08/27)

### (2) 八幡掘まつり

### (3) カフェ営業

### (4) DIG'S 協力イベント

### (5) 活動拠点整備



剪定講習会 (03/03)

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度のDIG'Sの活動の成果は、2点あります。1つ目はまずは学生で考えどんなワークショップにするのかを話し合ったこと。2つ目は学生が積極的に活動できたことです。

昨年からDIG'S独自のイベントを企画するようになりました。地元の方に相談しながら企画、運営しました。そして今年度は学生が主体となり企画を進めるため、テーマ決めから、数ヶ月間ミーティングを重ねて企画を行いました。

ワークショップでは、地元の方の協力が必要なため、学生が話し合ったことを打ち合わせで伝え、アドバイスを頂きながらより良い企画となるように進めました。地元の方もまず私たち学生の意見を聞いて下さり、ワークショップでやりたいことや目的など、詳しく意見を求められました。ワークショップを学生が主体で運営するには明確な目的や意識がないといけないことを感じました。これからDIG'S独自のイベントの企画がスムーズに進めるようになるために、今年度行った企画の流れや内容をまとめ、今後活かせるようにしたいです。

学生が主体的に活動を進めることができたことに関しては、ワークショップの企画、運営もそうですが、活動拠点の整備で、業者の方の指導のもと学生が協力しながら行うことができました。今年度の活動拠点の整備は、学生では手に負えないものが多かったですが、木の剪定方法を教えていただいたりと、今後の活動に活かせるものであったと思います。

## 活動を通して学んだこと

今年度は、より自分たちでの話し合いをもとにワークショップ活動ができたと思います。竹を使った楽器作りでは、メンバーの一言がきっかけで地元の方の力を借りつつ、楽しい楽器演奏ができました。まず自分たちが楽しめる企画を練ることが、地域の魅力を分かってもらえることに繋がるのだと学びました。

杉野仁美 (生活デザイン学科 3 回生)

大人や子ども、地域団体、役所の人など様々な人々と関わりを持つことで、それぞれのものの見方を知るだけでなく、そこから新たな発見をすることができることを学んだ。また、地域には様々な良さや問題があり、建物や風景などの様々な要素をうまく利用することでより良い地域を作ることができると思った。

貴志萌 (環境政策・計画学科 2 回生)

今年度の活動を通して学んだことは、ワークショップを自分たちで企画し、行うことの難しさです。私たちは、子どもを対象としたワークショップをしているので、子どもたちの目線に立ち、どのようにしたらワークショップを通して楽しく学べるができるのかを考えるのが大切だと思いました。

米田紗弥加 (建築デザイン学科 2 回生)

活動を通して、一つの企画を行うことが思っている以上に時間がかかることなのだを知ることができました。それぞれがやりたいことを企画に盛り込むことや広報への取り組みなど、なかなかうまくいかないこともありました。この学びと反省を生かし、次に生かしていきたいと思います。

梶友里絵 (環境政策・計画学科 2 回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

はちまんバンブーオーケストラ・たけおと代表 額田直子さん

私たちは八幡山の間伐竹を使った楽器づくりと演奏活動をしている団体です。今回、DIGS のメンバーから「八幡山の竹林のことをもっと地元の子どもたちに知ってもらうためのワークショップを企画したい」とご相談を受け、ご協力をさせていただきました。参加者募集に手間取ったり、幅広い年齢層の参加者に合わせて制作する楽器の種類や大きさを検討したり…と、いろいろ大変なこともありましたが、皆さんの頑張りのおかげで、子どもたちに楽しんでもらえる素敵なWS になりました。なかでも私たちが毎年参加している「八幡掘まつり」での演奏に、WS に参加した子どもたちが自作の楽器を持って参加してくれたことは、とても嬉しい思い出です。

## 指導教員より

環境科学部 環境建築デザイン学科 柴田いづみ

今年度の活動は、より地域の方々との連携が深くなったと考えられます。竹の楽器作りのWS では、八幡山の景観を守る会の活動に合わせて子どもたちに竹の伐採現場の見学をさせて頂き、村西耕爾氏には調整面で相談にのって頂きました。子どもたちは、山での竹の伐採は初めてで、また木陰でのたけおとの額田直子氏の指導で楽器を作り、9月の八幡祭りに合わせて白雲館での演奏会をしています。そして、拠点整備として腐った2階の梁の補修、雨ドイ直しを行いました。近隣から危険と指摘されていた松の切り詰めも、いろは組の指導もとのWS で、庭木の手入れ方法を教えて頂き今後の庭の維持管理にもアドバイスを頂きました。

古い家は、それなりの手入れを定期的にする必要があり、それが、持ち主の方へのお礼でもあるので、学生達も年度ごとにイベント活動と別に、手入れのテーマを決めて、申し送りをしながら進めて行く事が重要であると感じました。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



イベントチラシ

# 09 木興プロジェクト



## 建てる！復興支援。

「建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか」という思いをきっかけに、ものづくりによる支援活動を目的としています。今年度はより多くの住民に使ってもらえる、寄り合いやイベントが行える建物を設計・建設します。

### TEAM DATA

チーム名：木興プロジェクト  
代表者：小寺磨理子（環境科学研究科）  
メンバー数：22名  
指導教員：布野修司（副学長）、J.V.ホアン・ラモン（環境科学部）  
活動場所：宮城県南三陸町歌津田の浦  
関係団体：田の浦ファンクラブ、NPO 法人 環人ネット  
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

- (1) ヒアリング・アンケート調査
- (2) 掲示板/ビニールカーテン制作
- (3) ニューたのうらセンター建設  
★見出し写真：建て方 (08/14)
- (4) 情報発信・共有



餅まき (8/18)



田の浦クリスマスイベント (12/25)

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動が始まった当初、どんなヒアリングをすればいいかわからない状況であったが徐々に集落の方と話せるようになり、暮らしぶりも沢山聞き、見せて頂くことができ、情報収集事業は達成できたと言える。

センター建設については、楽座申請時、「集落のための公的スペースの提供」を目標とし、ターゲットも子どもからお年寄りまでと、漠然とした目標であったように思う。しかし、センターの完成時、想像を超える沢山の方が餅投げに来てくださった。思った以上に集落の人々に私たちの活動が認知されていて、センター完成を喜ばれていると知った。けれど、これから田の浦の方々が自分たちのものとしてセンターを積極的に使えるよう、施工期間中も一緒に作業を行うなど企画できればもっと良かっただろう。

情報発信については、多くの発表の機会で見意見を沢山頂き、改めて反省点や今後についての問題が浮かび上がった。また、他のプロジェクトと情報共有をし参考になった。現在、宮城大や名城大と連絡を取り合ったり、新しいプロジェクトの誘いが来たりと、更にネットワークが広がりつつある。

今後について今後も継続的に田の浦に関わりたいことに変わりはない。しかし、小さな集落の田の浦に必要なとされるものがないかを考えたとき、急務である建築物を必要とする段階は過ぎ、これからはソフト面での支援を充実させていく必要があるのではないかとも思える。「どこでなにをやるべきか」今一度考え直す時期にきているため、慎重に調査を行い、他のプロジェクトと連携し話し合いを進めていきたい。

## 活動を通して学んだこと

既存のネットワークの活用と今年度の新たなネットワークの拡大があったからこそ、センター建設は成立した。施工に関わる人とのネットワークとコミュニケーションは充実していたが、集落の人たちとのコミュニケーションについては、工夫をしてもっと沢山のひとと話せる機会を設けるとより良かった。

小寺磨理子（環境科学研究科環境計画学専攻1回生）

自分たちが行いたい事、地域にとって必要とされている事をきちんと把握し、現地の方とうまくコミュニケーションをとっていかねければ、自分たちの活動はただの自己満足に終わってしまうことを実感した。成果物を残すことはできたが今後の地域再生にむけての取り組みに関してはまだまだ問題点は残った。

平沢陽（環境科学研究科環境計画学専攻1回生）

至らない点が多く本当の意味での助言や指導等のサポートを出来るようになりたいと感じた。また、横の学年縦の学年共に情報共有が難しく、その大切さも再認識した。スケジュール管理等の時間配分の大切さも実感し、サポートは決して知識や技術だけ知っていればいいという訳ではないと改めて気が付いた。

大日方覚（環境科学研究科環境計画学専攻1回生）

センターは、誰が何をする場所なのか。もっと活動目的をはっきりさせる必要があった。ヒアリングやアンケートによる、一度や二度の会話だけでは分からないことが多かった。来年度以降、さらに被災地での活動は難しくなる。如何にして住民の意見を引き出し、活動内容に反映できるかが重要である。

井上悠紀（環境科学研究科環境計画学専攻1回生）

## 地域の方のコメント

気仙沼市社会福祉協議会 佐々木恭子さん  
（田の浦地区の紹介と現地の生活面でサポートをして下さった方）

田の浦地区の皆さんが外部の方たちと交流ができて、これからの地域を考えるきっかけになっていると思います。また、共有スペースができ、地域活動が可能になり、住民のコミュニケーションが図れるようになったと思います。作業工程等もう少し準備が必要でなかったのか、検証してほしいと思います。また、作った後、普段どのように活用されているか、地域住民の声を聞いて確認してほしいと思います。これから皆さんが建築に携わっていくうえで、使うひとの立場にたってもらえると、より良いものが出来ると思います。地域再生に向けて田の浦地区の住民の皆さんとの関わり方に検討が必要ではないかと思っています。

## 指導教員より（抜粋）

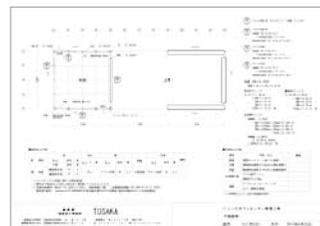
環境科学部 環境建築デザイン学科 J.V. ホアン・ラモン

本プロジェクトの実現は田の浦ファンクラブ、地元業者、滋賀県立大学の3つの団体の共同作業によって実現しました。ファンクラブはプロジェクトの中心核であり、その中心は集落のコミュニティです。このコミュニティは震災によって途方に暮れましたが、決して崩壊することなく新たな現実と向き合うために一致団結しました。

この集落の人柄とホスピタリティは集会所建設に協力した、丸吉木材、三浦工務店、丸功建設、佐藤組、板屋との共同作業に反映されます。私は、教師として学生を見てきましたが、学生の熱意を大変誇らしく思っています。3月から5月にかけて、学生たちは、自ら情報収集をし、6月に設計案をまとめ、現地にプレゼンをし、7月に確認申請をおろし、8月と9月には現地へ移動し、建設を行いました。彦根と田ノ浦の900 kmの距離はどんどん密接になってきています。

私は、8月のニューたのうらセンター建設期間中に学生や鶴飼先生と共に2、3日の短い田の浦滞在をして、手厚い歓迎と、滋賀県立大学と田の浦集落の人と人の繋がりを直に感じる事ができました。この繋がりによってより良い効果が次の年に生まれることを願っています。

## DELIVERABLE 成果物／制作物



確認申請（計画変更届）



回覧板アンケート



ニューたのうらセンター

# 10 あづちのえきづくり



## えきづくりでまちづくり！

もうすぐ100歳になる安土駅が新しくなります。安土の方々どんな駅にしたいか、ハードとソフトの両方について考えることで今後のまちづくりへのきっかけを作り、安土を盛り上げていきたいと思えます!!!

### TEAM DATA

チーム名：あづち一む

代表者：芦井絵利子（環境科学研究科）

メンバー数：8名

指導教員：J.V.ホアン・ラモン（環境科学部）

活動場所：大学、彦根市、近江八幡市安土町

関係団体：夢むすぶ安土駅の会

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) あづちのえきづくりワークショップ



ワークショップ (8/19)

★見出し写真：ワークショップ (07/15)

### (2) 周知活動（安土地域自治区文化祭・あづちっこフェスティバル・安土駅前イルミネーション）



文化祭 (11/03)

### (3) まとめ本づくり

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

プロジェクト立ち上げからバタバタとしてしまい、メンバーをしっかり募ることが出来ず、人数不足だったのが1番の反省点です。また、難しいテーマのため後輩にはなかなか分かりづらいかないと思い、うまく仕事を振ることができなかったのもよくなかったと思いました。

ワークショップを5回開くことができ、様々な人に参加していただけたことは良かったです。学生の各分野の専門を生かした駅のアイデア提案を行うことができ、住民の方々に喜んでいただけたことは良かったです。

周知活動では、大人から子どもまで駅の改修について知っていただくことができ、また意見やアイデアを頂くことができました。

これらの活動を通して出たアイデアや意見は、駅だけでなくまちづくりにも活かしていくことができると思います。また、これらの活動によって、駅だけでなく町全体についても話し合う機会になり、良かったです。安土の人たちから、商店街の活性化や店舗の改修、安土駅開業100周年イベントなど、学生と一緒にやりたいという声を頂いています。

今年度は、駅改修について考えようということだったので、話し合いが多かったのですが、来年度は、イベントなど楽しいことができるのではないかと考えています。

ただ、地域の方からの要望がとても多いので、全てに答えようとすると今年のようにバタバタとして大変になってしまうので、自分達がやりたいことにしぼってやるのがよいのかなと思います。

## 活動を通して学んだこと

地域の人たちの意見を聞いて、うまくまとめていくことや話し合いをしていく大変さを学びました。また、活動を紙にまとめたり、本にまとめたりという編集作業も勉強になりました。

芦井絵利子 (環境科学研究科環境計画学専攻 2 回生)

いろいろな製本方法を試すのは楽しかったです。安土駅の改修に住民や学生も関わっていったことが知ってもらえる大切なものだと思います。私は少しずつしか作業をしてないですが、それでも楽しくやらせてもらえてよかったです。

湯沢綾佳 (生活デザイン学科 3 回生)

社会の中でつながるのは難しいと改めて考えさせられました。安土のために動いていた事が、逆に自分たちの活動が地域の人達からサポートを受けていたのだと感じ、相互にその関係を築く大切さを知りました。社会の制圧をよけて活動するには、自分と地域のつながり方を認識しなければと思いました。

込山翔平 (環境建築デザイン学科 3 回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

フォーラム・安土駅 千貫昌一さん

安土駅は来年100周年を迎え、駅周辺整備が市の施策に位置づけられ、事業がはじまりました。駅は、まちのにぎわいの中心であり、人の集うところであってほしいと願って、平成24年1月から常楽寺の有志が集まり情報収集と意見交換を始めました。そんな折、滋賀県立大学「あづち一む」よりワークショップ形式のご提案を受け、「フォーラム・安土駅」の活動を始めました。

WS運営、出た意見の集約や資料のまとめ、また、改善策作成にあたってのご指導、ご助言など様々な局面でご支援を頂きました。おかげで活動の成果も見える形となり、報告書としてまとめることができました。参加した住民も、これまでにない新しい感性と息吹に接し、感銘を受けました。またイベントに合わせ、駅・駅周辺整備構想の展示コーナーを設けました。住民の皆さんに市の整備構想を知っていただき、新しい駅および周辺の姿やあり方について「あづち一む」の皆さんご提案いただきました。活動を振り返れば反省点は多々ありますが「あづちのえきづくり」の貴重な一歩を踏み出すことができました。これから本番となる駅づくりを、平成25年4月に発足予定の「安土学区まちづくり協議会」に引き継ぎます。

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部 環境建築デザイン学科 J.V. ホアン・ラモン

昨年、ゼミのM1生の芦井絵利子さんが、市民が推進している安土の新駅の開発に参加し、フォーラム・安土駅に参加するアイデアを教えてくださいました。安土は信長の夢で、500年近くの間、いまだ眠っているようですが、その静けさは西の湖の平和で静かな水をすくい取るときに感じることができます。運命が私を安土のフォーラムへの参加を導き、安土のおもてなしを知って、外国人として、時々オルガンティノの精神とセミナーでの彼の夢とを同一視します。安土は、その過去に描かれた平和と未来に向かっていきます。また、運命が描く歴史というものは、ブラシを持ち上げる十分な力のない人々の歴史です。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



活動のまとめ本「フォーラム安土駅」

# 11 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト



## 楽しみながら継続

他人とコミュニケーションをとることに困難がある障がい児・者と共に、互いに成長することを目標に活動しています。油絵による創作活動や宿泊体験など将来障がい・者が余暇活動を充実できるような活動を行います。

### TEAM DATA

チーム名：ボランティアサークル Harmony

代表者：西口舞華（人間看護学部）

メンバー数：25名

指導教員：黒田末壽、竹下秀子（人間文化学部）

活動場所：学内、彦根市、東近江市

関係団体：NPO 法人 障害者の就労と余暇を考える会 メロディー

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 定例活動



定例活動 絵画 (12/04)



定例活動 茶道 (12/05)

### (2) 宿泊体験活動

### (3) クリスマスコンサート

★見出し写真：クリスマスコンサート (12/02)

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

「定例活動で大学を借りることが難しい場合の代替となり、あまり費用のかからない施設を確保すること」が前年度の課題となっていましたが、その必要のあった今年度の最後の活動では、彦根市中地区公民館をお借りすることができました。また、定例活動において今年度から油絵を取り入れ、より本格的で充実した創作活動を行うことができました。

活動の成果としては「宿泊体験を嫌がっていた子が宿泊体験をしたいと言ようになった」、「前年度は餃子を食べられなかった子が今年度はたくさん食べることができた」等、目に見えた子どもたちの変化や成長が見られたことが大きな成果だと考えます。

一方、障がいについての勉強会を開くことができていません。そのため、勉強会を経験していない現在の1、2回生は障がいに関する知識はおろか Harmony の活動の目的なども知らない人が多いように感じます。これから Harmony を支えていかなければならないメンバーがこのままの状態では Harmony の役割を果たすことができなくなってしまいます。

そこで、活動に必要な基本的な知識を身につけ、メンバー内での情報共有を強化するため月に1回程度昼休みを利用した簡単な勉強会や会議を開こうと考えています。今後の予定などを確実にメンバーに伝え、障がいや活動に対する理解を深め、今後の活動につなげていきたいと考えています。また、これによって参加者の少ない定例活動への自発的な参加を促したいと思います。他にも、今年度は学生が新たに考えて始めた取り組みが少なかったように感じるので、今後は学生が自ら考えて行動し、様々なことに挑戦していきたいと考えています。

## 活動を通して学んだこと

最初は子どもたちとどう接するかということに精一杯で、変化を観察することまではできていなかった。しかし、何度も子どもたちと活動していると、その子の特徴に合わせた接し方をする必要があるとわかり、また、変化や成長した点を発見することができるようになった。

江口奈穂（生活栄養学科 2 回生）

この1年間運営に関わって Harmony の活動は多くの方に支えられて成り立っていることを実感した。支援をしてもらえるのは Harmony の活動が認められ、期待されているということであると感じる。私たちは障がい児・者やその家族が抱える問題の改善に責任感を持って取り組まなければならぬと学んだ。

谷口友美（生活栄養学科 2 回生）

障がいを持った人でも自分たちとなんら変わらないということです。一年間関わってきて、好きなことは意欲が見られるし、嫌な事でも周りと違うと意識して順応しようしたり、怒られて反省したり、自分たちが普段していることとなんら変わらないことをしていると思いました。

山本脩平（機械システム工学科 2 回生）

## 地域の方のコメント（抜粋）

NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー 後藤真吾さん

10 年余り前に障碍児の保護者の会「メロディー」を設立した時に、まず希望したことは、関わりが継続する専門性の高いボランティアでした。（注：「メロディー」は後に NPO 法人となる。）障碍のある幼児、児童や青年が様々な活動を当たり前に行おうとする時に、それを支えるために保護者や家族が努力するだけでは無理があります。専門性が高く継続的な支援者として活動を続けているハーモニーの存在はまさに障碍児者と共に暮らす家族から望まれているボランティアの姿であり、心強いものがあります。また、単にボランティアスタッフだけに留まらず、障碍のある児童・青年とその兄弟姉妹にとっては、同時代を共に生きる仲間として共に楽しみ合えるかけがえのない存在です。ハーモニーの支援によって、家族だけではできない活動ができ、家庭と学校や仕事などの日中活動の場に加えて余暇活動の場の広がりが見られたことが、障碍のある一人ひとりにとって生活世界を広げる契機となっています。

## 指導教員より（抜粋）

人間文化学部 人間関係学科 竹下秀子

障がい当事者の地域での暮らしや個人、家族としての人間発達や余暇の充実に寄与するだけでなく、地域住民や地域福祉の関係者、特別支援学校教員、地域在住の芸術家、高校生や高校教員、他大学の学生や教員など、多様な立場の人々との連携をつくりだしており、エンパワメントという観点から地域の活性化に大いに貢献している。

新しいテーマの活動を取り入れたことで、1) 活動内容に多様性が増し、2) 新たな挑戦にがんばる必要を通じて、子どもたちと学生や支援者との絆が強まり、その中で、3) 子どもたちが新しい表現やコミュニケーションの力を発揮する場を周囲が確認しえたことは、大きな成果といえる。「子どもたちが活動を楽しみ、重い自閉症などの障がいを有しつつも他者と関わり、他者に心身を協調させる力を発達させていく姿を保護者や地域の支援者とともに学生が見守り、その成長・発達を確認して進めていること」がハーモニーの活動のユニークで優れた特徴である。毎回の活動における運営のスキルや子ども理解については、まだまだ多くの課題がある。日常的なコミュニケーションをさらに密に、仲間同士の信頼を築きつつ、大学生らしい学びの質を深めてほしいと思う。

## DELIVERABLE 成果物／制作物



クリスマスイベントパンフ



クリスマスイベントポスター

## 12 地域博物館プロジェクト



### 地域と共に歩む博物館づくり

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財があります。“地域文化財”や地域の歴史・文化・自然などを住民の方々とともに調べ、“地域博物館”をつくりあげていくことで地域の魅力を再発見します。

#### TEAM DATA

チーム名：スチューデント・キュレーターズ

代表者：佐野正晴（人間文化学部）

メンバー数：17名

指導教員：市川秀之、武田俊輔、東幸代（人間文化学部）

活動場所：県内、高島市マキノ町、長浜市等

関係団体：白谷民俗資料館

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

#### PROJECT

#### 実施事業

- (1) 白谷荘民俗資料館 博物館展示準備・調査



白谷教科書部門調査 (07/22)

★見出し写真：白谷民具部門作業 (07/22)

- (2) 長浜曳山祭 博物館展示・調査

- (3) 高宮町不破氏邸宅・民具調査

- (4) 守山市下之郷町・民具調査



守山市下之郷民具調査 (09/15)

### 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

本プロジェクトの特徴は、複数の地域で事業を進めていることである。それには“地域博物館”の手法をモデル化し、広めていく狙いがある。地域には多くの文化財がある。最近では、住民自らが、それらを活用して公民館などに展示している地域もある。また行政の協力を得て、住民自らが運営する資料館もある。だが、そうした例は少なく、住民に地域の文化財を活用し、紹介したいという思いがあっても、実現に至らないことが多い。そうしたなかで、多くの実践例をつくり、手法として確立していくことは重要である。

一方で、個々の事業別に考えると、「長浜曳山祭 博物館展示・調査」事業を除いては、計画通りに進まなかったものが多い。

「白谷荘民俗資料館 博物館展示準備・調査」事業では、膨大な収蔵品の調査と、展示場の修理作業が難航し、当初、秋に開館する計画だったが、延期せざるをえなかった。管理者との協議の結果、来年度5月の開館を決定した。「高宮町不破氏邸宅・民具調査」事業や「守山市下之郷町・民具調査」事業でも、調査自体を進めることはできたが、ワークショップの開催や展示活動をおこなうことができなかった。

今年度は、活動の成果を展示やイベントなどによって、アウトプットする機会が少なかった。綿密なインプットなしに、良いアウトプットはできない。今年度の調査や作業の成果を、次年度以降、白谷荘民俗資料館の開館やワークショップ、展示会などで紹介していきたい。また次年度には、守山市下之郷で市民団体が主催する「下之郷遺跡まつり」や「田植え体験」にも、協力団体として組織的に関わっていきたい。調査、展示活動以外のイベントにも関わり、私たちの活動をアピールしていきたい。

## 活動を通して学んだこと

私は、7月に楽座のインターンに参加した翌月に楽座のメンバーとなり、民具・教科書・古文書、それぞれの調査に参加させていただきました。中には貴重な史料もあり、かつての生活・教育が何い知れてとても勉強になりました。これらの史料を私たちの手で地域の財産にしていければ良いと思います。

小池真那加 (地域文化学科 2 回生)

このチームの発足から関わり、現在の代表と一緒に活動をしてきたが、楽座の正式なチームになったことで改めてしっかりと活動していこうという気持ちになった。初めての経験に戸惑うことも多々あり、メンバーには迷惑ばかりかけているが、来年度からは次の世代に続くように、中心メンバーとして頑張っていきたいと思う。

池田灯 (地域文化学科 2 回生)

白谷の活動では古い農機具や生活用品の手入れや展示の作業をしており、使い方や見せ方など、普段知らないことを学べてとても興味深いと感じています。また、亭を作ったときは亭を印刷した巨大な紙をベニヤ板に張り付ける作業が大変でしたが、皆と協力して無事完成させることができました。

東武司 (地域文化学科 3 回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

曳山博物館職員・壽山若衆 大塚映明さん

意外なことに、大学と博物館はこれまでお互いが遠い存在でした。今回の展示は、曳山祭の大規模調査を県立大に依頼したことがきっかけとなっています。

大学は大学で、博物館は博物館で事業を完結させる従来のやり方を転換させれば、いろいろ新しいことができるようになるでしょう。学生さんにとっても、コミュニティの人々や観光客など不特定多数の人々に対する展示や調査研究の成果発表の場として博物館を活用していただくことは意味のあることだと思います。曳山祭にもきつと良い影響を与えるでしょう。なにより学生の皆さんは私たち博物館の人間より発信力があるので、この点を生かして、これからも多くの方々に関わっていただき、曳山祭の多彩な魅力を伝えていただければと思います。

## 指導教員より (抜粋)

人間文化学部 地域文化学科 市川秀之

本プロジェクトはこれまで人間文化学部の学生を中心に行ってきた様々な活動を、近江楽座の形に再構成したもので、まずは目標を各地での文化財の調査や集落博物館づくり、それを基盤としたイベントなどにおいてスタートした。毎月一回、高島市白谷の古民家が所蔵する教科書・民具・古文書などの整理をしてきたが、民具についてはほぼ作業がおわり、展示作業へと展開、今年の5月には開館のめどがたつに至っている。当初の予定より少し遅れたものの学生が中心になった博物館の開館は、全国的にも極めて稀なことで、大きな成果をあげつつある。また長浜では曳山博物館の特別展示にあわせて、曳山の亭(ちん)の模型を制作している。この場所は部外者が入れない場所であるため、一般の方の閲覧は全く初めてのことであった。既存の博物館との協力によってこのような展示を達成したことは今後の運営を進める上でも貴重な体験となった。また守山市下之郷でも下之郷史跡公園や地元の稲と雑穀の会と協力し民具整理を行った。まとまった成果がでるのは今後であるが、将来的には展示へとつながる可能性をもっている。

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



亭内部復元模型  
縦 114 × 横 185 × 高さ 180 (cm)  
組み立て式

# 13 おとくらプロジェクト



## 歴史ある高宮に新たな風を

築二百年を超える古民家と蔵が、学生の手によって、喫茶、ギャラリー、イベントスペースに生まれ変わりました。おとくらプロジェクトは歴史あるすばらしい街、高宮をより元気にすることを目的としています。

### TEAM DATA

チーム名：おとくらプロジェクト

代表者：久保晃（環境科学部）

メンバー数：23名

指導教員：迫田正美・中西茂行（環境科学部）

活動場所：彦根市高宮町（喫茶おとくら）

関係団体：高宮いっしょにやろう会

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

- (1) イベント活動
- (2) ギャラリー活動

- (3) 喫茶活動

★見出し写真：喫茶活動風景 (12/15)

- (4) 広報活動



NHK 撮影 (02/10)

- (5) 近江楽座チーム関連活動



全国学生カフェサミット参加 (10/13)

- (6) ミーティング

- (7) 今津まちづくりWSへの参加

- (8) 研修旅行

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

活動の3つの柱である「蔵(イベント活動)・喫茶・ギャラリー」の運営を軸としながら、様々なイベントを開催し、地域の方々との交流を深めていく。これは発足当初から続いているおとくらの伝統的なスタイルであり、今年度も姿勢を崩さなかった。

照明づくりWSやえびす祭への近江楽座合同での出店、高宮町での活動報告会など申請時にかかげた達成目標を全ては実現できなかったが、申請時予測できなかった多くのものにおとくらプロジェクトは出会えた。その1つとして高宮サマーフェスティバルへの出店である。高宮の伝統あるお祭りに4年目にして初めて出店できたことは、おとくらが高宮のおとくらとして認知された瞬間であったのではないだろうか。その他にも各種メディアへの出演や今津町のまちづくりへの参加など活動の輪が広がった1年であった。

ただ、1つ大きな問題として挙げられることは、おとくらプロジェクトは「高宮町に新しい風を吹かせる」ことが目的だ。現在おとくらは活動の輪が広がりすぎて、高宮に焦点を当てられていないのではないかという疑問がある。その問題を解決する策としては、例えば高宮のいいところを高宮に向けて発信する地域ジャーナルの作成や、おとくらが主催企画するお祭りを高宮で行い、高宮の人達を巻き込んでいく、その他にも高宮の観光案内所のような存在を目指すなどいろいろな形があるだろう。

4年目を迎えたおとくらプロジェクト、高宮には着実に新しい風が吹きつつある。だが、学生が町に風を吹かすこと自体は簡単なことなのではないだろうか。その風が、地域の人達にとって心地よいもので、心を動かせることができるか。この点でさらに試行錯誤し創意工夫していくことで「地域のコミュニティスペース」に近づけるのではないかと思った1年であった。

## 活動を通して学んだこと

私はおとくらでの1年間の活動を通して、地域の人々の温かさを知りました。地域の人々がおとくらに来て、高宮の良い所を教えてください、気軽に話しかけてくれました。また、サマーフェスティバルではより幅広い年代の人々と交流が深まり、地域の人々との交流の大切さを学びました。

藤田楓加 (生物資源管理学科 1 回生)

活動を通じて人とのつながりの重要性を感じました。おとくらでは様々なイベントを行っていますが、イベントに関わって下さった人のおかげで新たな人と関わることがあり、そのことによって活動の幅が広がるのではないかと感じました。人とのつながりは活動の幅を広げるために重要であると学びました。

三木智晴 (環境政策・計画学科 1 回生)

僕が活動を通じて学んだことは、地域活性化という目標実現の難しさです。ただ単にイベントやギャラリイの内容等を考えるだけでなく、そこから高宮の活性化のためにどう繋げていこうかがいかに難しいことかを最近とても思いました。より良い活動をするために全員で話し合うことも大切だと思います。

木田慧次郎 (材料科学科 1 回生)

活動を続ける中で、人と人の対話がかかせない事であると実感しました。お客さんとの会話は僕達に地域の方々の考えを教えてください、アーティストさんとの打ち合わせがなければイベントは成功しませんでした。これらはどれも会話による小さな繋がりで、地域の方が大切にしているものだと思います。

金子尚志 (材料科学科 1 回生)

## 地域の方のコメント

宿駅座・楽庵 加藤義朗さん

おとくらプロジェクトが無事 三年目を迎えられ、喜んでます。NHKに取り上げられたり、いろいろ嬉しい事があると、つくづく継続は力なりと感じます。これからも、みんなが楽しむ事を第一にして、高宮に新しい風を吹かしてくれと信じています。私も、お節介なオーナーとして これからも、楽しませていただきます。

## 指導教員より

環境科学部 環境建築デザイン学科 迫田正美

今年度は立ち上げにかかわった上級生たちが一度に卒業してしまう中で2回生以下の若いメンバーだけで活動を続けつつ新しい展開を図るといふ難しい局面をメンバーが協力してよく乗り切ってくれたと思う。これまでの活動の歴史と成果を引き継ぎながら、自分たちらしい新しい取り組みと活動の在り方を探りながらの1年間であったように思う。

そのような中で、中山道に関係する他の楽座チームとの連携を視野に入れたこと、研修旅行で他の中山道宿場町での地域活動に触れたことなどにより、自分たちの立ち位置を再確認する機会が持てたことは今後の活動を考えるうえで大きな意味があったと思う。

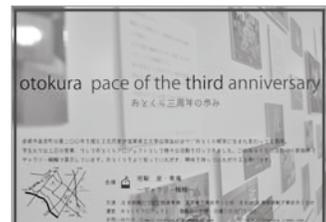
この1年を振り返って、それぞれの学生がそれぞれのやりがいを見いだせる活動の在り方を考えること、そして「自分たちに何ができるか(新しい風)」ということだけではなく、「高宮という地域や人々のもつ歴史や魅力、力」を“地域の方々と共に”再発見し、活かしていくという姿勢を忘れないでほしい。

DELIVERABLE

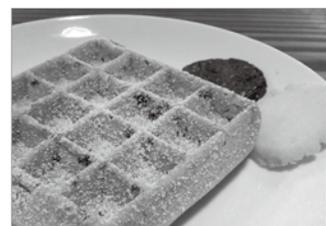
成果物 / 制作物



3周年コンサートチラシ



毎月のギャラリー展示 ('12.4月 - '13.2月)



ワッフル、かき氷など新メニュー

# 14 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-



## 地域よし × 学生よし × 家主よし

上岡部町にある築135年の古民家にて活動しています！古民家改修・古民家勉強会・食卓イベントを通じて、地域の方との交流や、留学生も含めた学生同士での交流が深まる場づくりを進めています。

### TEAM DATA

チーム名：かみおかべ古民家活用計画

代表者：河野菜津美（環境科学研究科）

メンバー数：15名

指導教員：柴田裕希（環境科学部）

活動場所：彦根市上岡部町

関係団体：上岡部自治会

近江楽座活動年度：(H16) (H17) (H18) (H19) (H20) (H21) (H22) (H23)

## PROJECT

## 実施事業

- (1) 古民家改修事業
- (2) イベント開催事業



ピザ窯 (07/15)

★見出し写真：万華鏡ワークショップ (08/23)

- (3) 畑作成・運営



地藏盆 (08/18)

- (4) 地域行事への参加
- (5) 古民家内の物品整理

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

我々は、古民家を開かれた交流空間として活用することを目指している。具体的には古民家をシェアハウスとして活用するほか、地域の方々が気軽に立ち寄れる「井戸端」のような場を提供し、さらには留学生を含む学生などにも広く門戸を開き様々な人が交流できる空間を提供したいと考えている。また、様々なイベント会場としての活用も視野に入れて活動している。

このような交流空間を創出するために積極的に行ってきたのが「食卓」をテーマにしたイベントである。参加者が料理を持ち寄り、会場で調理をしたりして、みんなでひとつの食卓を囲む。しばしば近隣の方々からも野菜などの差し入れがあったり、それをきっかけに話がはずんだりしており、地域との関係作りにも一役買っている。地域のお祭りや清掃などの行事に積極的に参加するようになってきた。一緒に作業をし、飲食をともにすることで地域との方々との距離は着実に縮まっている。今後も、地域の方々との交流を大切にし、古民家の活用に地域のニーズを取り込んでゆきたいと考えている。

この一年間、随分積極的に活動し、実際に成果も上がってきている。しかし、一方で反省すべき点も多い。中でも特に重大なのは改修作業の遅れである。また、今年度の活動は計画性に欠けていたことも反省すべきである。改修作業は勿論のこと、結果的には成功している各種イベントもやや場当たりのであり、準備不足を感じることもしばしばであった。今後について、地域行事への参加などは勿論、地域の方々との交流を一層深め、地域のニーズをよりよく取り入れた活動とスムーズで的確な活動を行うために、前年度の反省を生かした体制作りを目指したい。

## 活動を通して学んだこと

上岡部にある空き民家を紹介していただいたときに一目見て好きになり、身に余る大役であることを承知で古民家活用のプロジェクトをスタートさせました。一年を通じて仲間を集めること、地域の方に活動を知ってもらうことなど、プロジェクトの基盤づくりの大変さやおもしろさを学ばせていただきました。

河野菜津美（環境科学研究科環境計画学専攻2回生）

私がこの1年、新規プロジェクトのかみおかべの活動を通して学んだことは「組織を運営することの難しさと楽しさ」です。1つの組織を動かすには情報の共有の難しさなどの壁がありますが、それ以上に自分の意見が直接活動の方針、内容等に反映されるという面白さと楽しさを学びました。

村尾友香（国際コミュニケーション学科1回生）

イベント開催の企画、運営について学べたことが大きいです。そこで地域の要望や宣伝方法、人との関わり方を考えることができました。かみおかべにはいろんな人が集まります。一つの場所に違った経歴の方が集まり情報交換しあう、そんな空間の面白味を学びました。

石森結衣（環境計画・政策学科1回生）

## 地域の方のコメント

平成24年度上岡部町自治会長 田中久夫さん

いつも、上岡部ってどんなところ?と聞かれて「珍しいものも自慢できるものも何にも無い」と返事するのが普通でした。幸いに大きな災害に会うこともなく平々凡々と時間が過ぎて高齢化は進み、通りは愈々静寂感漂う〜って風でした。そんな町に県立大生が来られて空き家となった古い家を利用して活動されるという話が持ち上がり、久しぶりの活気ある話題となりました。どうしていいかわからないまま、皆様方の思ったようにやっていただくことにして、その進展を楽しみにしておりましたが、みるみるうちにその家屋に生気が溢れ新しい息吹が宿ののを実感した次第です。町民も楽しみにして色々な行事に参加させて頂いております。

## 指導教員より（抜粋）

環境科学部 環境政策・計画学科 柴田裕希

本プロジェクトは今年度新規採択され、一年弱の期間で無事に活動を立ち上げることができた点は高い評価に値する。採択前の準備期間から、外部資金を獲得するなど、その計画に沿って活動を展開し、学外からも高く評価された。活動を通じた組織の形成に関しては、1年生のメンバーを増やし、多くのインターン生を受け入れたことで、メンバー構成の確保が今後より一層進み、持続的なメンバー構成となるであろう。また、学部や学科を横断したメンバー構成と、年間を通じ複数の留学生の関与を受け入れてきた実績を踏まえると、多様性を持ったメンバーによる活動が期待ができる。拠点となる古民家のアメニティー整備の進展や、年間を通じて集落関係者や住民との信頼関係が築けた点は、いずれも特筆すべき成果であり、今後の継続的で発展的な展開を期待している。

DELIVERABLE

成果物／制作物



活動記録シート（地域、改修、畑、イベント）



イベントチラシ

# 15 信・楽・人 -shigaraki field gallery project-



## 歴史ある信楽の今をコーディネート

まちの中に情報や活動を発信する拠点を実際につくり、地元の方との密度の高いコミュニケーションを心がけながら、訪れた人や地元の人にまちの魅力を再発見してもらえることを目指しています。

### TEAM DATA

チーム名：信・楽・人 - shigaraki field gallery project -

代表者：長見子（環境科学部）

メンバー数：8名

指導教員：印南比呂志（人間文化学部）

活動場所：甲賀市信楽町長野

関係団体：窯元散策路の wa

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) サイン計画



サインスタディ (12/22)

★見出し写真：サイン試作品作り (03/07)

### (2) 窯元ヒアリング

### (3) Ogama 植栽



Ogama 植栽手入れ (06/16)

### (4) イベント補助

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

今年度の成果は大きく2つあります。サイン計画を通して、おかみさん会との親交を深められたこと、また、窯元散策路の実態の把握です。おかみさん会とは、今年度、何度も話し合いをしたことで、良い関係が築けたと思います。信楽人の代が変わり、内面の関係が薄くなってしまっていたので、今年度のこの成果は大きいと思います。

もう一つは、実態の把握です。今回窯元の職人へのヒアリングをしたことにより、まちに対する意識の差を明確に把握することができました。そして、意識の共有、コミュニケーションをとることが、窯元散策路で一番問題になっていることを実感しました。また、窯元・焼き物に関する知識も得ることができました。

また、今年度はサインの試作品を作ることができました。来年はワークショップ形式でサインをおかみさん会と制作します。

できなかったことは、サイン計画が長引いてしまい、計画通り進めることができなかったことです。その原因として、一回生が多かったのもあり、土日に働いておられるおかみさん会とスケジュールを合して信楽に行くことが難しかったことです。また「窯元散策路のWA」、「おかみさん会」、信楽人の組織と組織の意識のずれの違いも大きな原因の一つです。

来年度の課題として、サイン計画と平行して窯元散策路内の意識の共有を目標に活動していきたいです。そのため、地域のひとと親交を深め、信楽人で各個人の意見を聞き、窯元散策路の将来像を文章にまとめたいと思います。甲賀市ブランドに認定され、窯元散策路にも大きな動きが出て来ました。窯元散策路が自分たちの意志で行動し、まちを作っていくためにも意識の共有が重要だと感じました。

## 活動を通して学んだこと

おかみさん会と話し合いをしてきて、コミュニケーションを取る重要性を学びました。プロジェクトに関することだけではない会話を取れてこそ、これからの信楽の話やプロジェクトの話を中心に話せるようになるということを実感しました。学年の離れた一回生とどのように地域に関わっていくか考えました。

西出彩 (環境建築デザイン学科3回生)

信楽人の活動は信楽で陶器をつくる職人とつながりが深く、周りの方に信楽人の活動を知ってもらっていることに驚きました。そして、信楽人の活動を一年間続けてきましたが、信楽に足を運ぶたびに信楽の良さと、学生がこのような場所で職人たちと一緒に地域を盛り上げていく貴重な活動ができるのはここだけだと思えました。

町口久貴 (環境建築デザイン学科1回生)

窯元散策路のサイン計画では窯元の方や地元の方との話し合いを通じて、信楽が目指す地域の発展の仕方や将来像について意見を伺えた。また自分たちが外部の視点となって信楽を見たとき信楽がどのような街に感じられるか、その上でどのように自分たちが活動していけばよいか積極的に考えることができた。

鈴木緑 (環境建築デザイン学科3回生)

主にサイン計画を進めた。散策路の方々との意見の摺り合わせが上手にできなかったりしたため遅々として進まなかった。だがその中で信楽の本当の魅力とは何なのか、それを伝えるためできることは何なのかを考えることができた。サイン計画に時間をかけたからこそものを形作ることの大切さを学べた。

井上優里 (生活デザイン学科1回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

窯元散策路おかみさんの会代表 谷井祐子さん

本年度の信楽人は、主におかみさんの会との交流を深めたことで様々な良い結果を生み出せたと思います。特に昨年から取り組まれている窯元散策路のサイン計画では、ようやく見本作りまでこぎ着けることができ、大きな一歩を踏み出せたように感じています。計画を進めていく中で、こちらの色々な要望に一生懸命に伝えて下さり、何度も信楽に足を運び会議をし、またおかみさんの会主催の「お話の会」にも前向きに参加して下さるなど、窯元との交流に力を注がれたことは大変嬉しいことでした。デザインも一人ひとり考えて沢山のアイデアを提供して頂いた中から選出致しました。出来上がりが楽しみです。これで迷路のような散策路をかわいらしいタヌキが案内してくれるようになれば、お客様も楽しく回ってもらえそうです。

DELIVERABLE 成果物 / 制作物



サイン試作

## 指導教員より

人間文化学部 生活デザイン学科 印南比呂志

学生たちが信楽に入ってから早6年が経った。shiroiro-ieの完成、Ogamaの完成、地域に根付いた活動拠点が出来、窯元や作家、行政との連携も増えている。施設だけでなく人材としても信楽に定住・就職して活動する卒業生も「信楽人」の活動から生まれた。信楽の日常の営みの中で、学生たちが活動している姿が当たり前のように感じられるようになった事は、近江楽座が学生活動に対して期待していたことである。ものづくりの伝統産地の取組みに参画し、地域の暮らしの現状に目を向けながらの活動は、地域の一員としての資格を得たようなものである。このような経験を経て地域社会の仕組みを知り、「信楽人」の活動の存在意義が理解出来たのではないだろうか。これからも人間関係の持続が大切である。

# 16 ほたてあかりプロジェクト



## 被災地と関西圏をつなぐ架け橋に！

被災地のお母さん方がつくる「ほたてあかり」を私たちが関西で売り、被災地の現状を地域の人々に伝えることで、関西の人々と被災地の人々がつながるいい機会になればと思っています。

### TEAM DATA

チーム名：ほたてあかりプロジェクト  
代表者：阿部薫（環境科学部）  
メンバー数：12名  
指導教員：鶴飼修（全学共通教育推進機構）  
活動場所：関西圏、宮城県南三陸町田の浦  
関係団体：田の浦ファンクラブ、NPO 法人環人ネット  
近江楽座活動年度：(H16) (H17) (H18) (H19) (H20) (H21) (H22) (H23)

## PROJECT

## 実施事業

### (1) イベント出店販売



本願寺神戸別院にて (07/09)

### (2) 委託販売

### (3) キャンドルナイト

### (4) イベント開催

### (5) 新商品開発



FM ひこねラジオ局収録 (11/26)

★見出し写真：ほたてあかり購入者からの返信

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

この1年間の活動は予算の執行が予定通りでできなかったことが大きな反省点としてあげられる。特に新商品開発事業は当初の予定よりも大きく変更してしまった。近江楽座申請時の計画として、ほたてあかりとは違った、みんなで集まらずとも自分の家で時間のあるときに一人で作れるような商品を開発する予定であった。しかし、申請後徐々に女性たちのモチベーションも下がり、新商品を開発する作り手がいなくなってしまった。そのため、ほたてあかりを改良して新しいバージョンのほたてあかりを開発することにした。予算を申請する上で1年間の活動計画の見通しがあまかったこと、そして事業が途中で変わった時点で速やかに新たな策を考えるべきであったことも反省点である。

また、細やかな販売戦略をたて販売形態を工夫すべきであった。そもそも誰をターゲットとして商品を販売するのか、そして商品を買ってもらうにはどうしたらいいかということを詳細にチーム全体で戦略を立てる必要があった。

この1年で滋賀を中心とした地域でほたてあかりの販売と被災地の現状を伝える活動を行ってきた。楽座の活動での売上は、合計で1009個、金額にして504,500円の売り上げであった。在庫数は残り300個ほどとなり、完売も近い。ほたてあかりの販売で田の浦の女性の交流する時間と場所、一時的な収入を作り出したこと、そして震災の記憶が薄れている中で出会った人々に被災地の現状を伝え少しでも震災のことを思うきっかけになったかと思う。また、ほたてあかりが地域と人をつなぐ役割も果たせたように思う。

## 活動を通して学んだこと

私がこの1年間を通して、ほたてあかりで学んだことはものを販売する難しさと楽しさでした。ほたてあかりが生産中止し、在庫販売していくことになり、どのように販売したら買ってもらえるのか考えるのは楽しかったです。実際販売すると、その難しさにも気づきました。

湯澤綾佳 (生活デザイン学科2回生)

この活動は出店先やイベントの企画などたくさんの人にお世話になりました。一回の活動を行うとそこでたくさんの人と出会い、そこでまた更なる出店の依頼や活動の提案、人の紹介がありました。地域のネットワークは大きく、地域活動ではこの人々のネットワークが大切であることを深く学びました。

阿部薫 (生物資源管理学科4回生)

ほたてあかりの活動を通してたくさんの人と会うことができました。自分たちがたくさんの方々との関わりの中で成長したことを感じられたし、地域ネットワークの重要性にも気づかされた。商品開発・販売のノウハウについて学んだだけでなく、そういった人との関わりについて学んだことが多かったように思う。

小島なぎさ (地域文化学科3回生)

## 地域の方のコメント

田の浦ファンクラブ会長 佐藤久次さん

震災で仕事も失ってしまい、何もすることがない時間がたくさんあった時期に、少しでも収入があったことは助かった。

田の浦ほたてあかり作り手の主婦の方

学生の皆さんと色々な交流と出会いがあったことがよかったです。私自身田の浦に住んでいながら部落の人達とあまり交流がなく、ほたてあかりを作ることによって前より話せる人、仲良くなった人たちが増えたこともよかったです。必要な材料を地域のみなさんが快く提供してくれたり、協力してくれてとても嬉しかったです。

## 指導教員より (抜粋)

全学共通教育推進機構 鵜飼修

本プロジェクトは、まちづくりでも被災地における活動という特殊な状況であり、さらには滋賀県でも希な漁村集落を対象とした活動であった。プロジェクトでは、現地の状況にあわせて新商品開発を断念したが、そうした状況でも、自分たちの活動の本質やミッションは何かをとらえ、年間の活動を継続できたことは多いに評価したい。集落の方々も「非日常のひとつきを学生達が提供してくれる」と学生達の訪問を楽しみにしてくれている。イベントや編み物おちゃっこ会での漁師のお父さんや、おばあちゃん達の笑顔が、訪問する私たちにも元気を与えてくれる。1,000kmの距離を超えての継続的な活動は、互いの元気を育てている。頂いたご縁を大切に、いつか笑顔で「あのときからの交流が田の浦の元気な姿をつくってきた」と思い合える時が来ることを願って活動を継続することが大切であろう。

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



イベントチラシ



商品パンフレット



## 人と人をつなぐ野菜づくり！

一姓は今年度、「人と人をつなぐ野菜づくり！」を元に、畑作業を通して多くの人をつなぐ活動を目指します。今年度は開出今町での活動に重点を置き、地域の人々とさらに深く関わっていけるようなイベントを多数計画中です。

### TEAM DATA

チーム名：一姓  
 代表者：川淵衣里子（環境科学部）  
 メンバー数：20名  
 指導教員：増田佳昭（環境科学部）  
 活動場所：彦根市（一姓畑、県大協同ファーム）  
 関係団体：開出今町子ども会  
 近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

### PROJECT

### 実施事業

- (1) 開出今町イモ掘りイベント

★見出し写真：じゃがいも掘り (06/24)

- (2) サツマイモ掘りイベント

- (3) 開出今餅つきイベント



餅つき (01/20)

- (4) 「稲盆」出店

- (5) 「湖風祭」出店



湖風祭出店 (11/10)

- (6) 「びわこ毎日マラソン」ブース出展

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

本年度の活動は地域との交わりが昨年度よりも濃いものとなり少しは充実した。いつもお世話になっている近所のおばあさんたちとは収穫祭を催すことにより、また、子どもたちとは農作業はもちろん、かけっこなどの遊びを通して親交を深める一年になった。実際に子どもたちに話を聞いてみると、一緒に遊びたいから来たという意見を多々聞いた。私たちとしては嬉しいかぎりだが、もう少し野菜のほうにも興味を持って参加してもらえるような企画が必要であるということを痛感させられた。本年度は楽座の「横のつながり」も重視した。しかし諸事情により実施はできなかった。子どもだけでなく大人相手にも通用するような企画があればもっといろんなつながりが持てると痛感した。

開出今町でイベントをおこなった際には一姓畑はなかなか賑やかな雰囲気であった。しかし、子どもたちが結構参加してくれている中、一姓メンバーはコアメンバーでだいたい固定されていた。先輩から引き継ぎをした後はメンバーが5人という人数であり、下宿生も1人だけという事態になり、水やりなどの負担が一気に増えた。また、水やりすら行けない日が連続してしまい、野菜自体なかなか育てられない事態が起こってしまった。これに関しては、メンバーが野菜を育てているという自覚を持ち、用事がある時には水やりくらいはカバーするなどの考えが出なかったことが要因にあげられる。今後についてなのだが、一度立ち止まって一姓の活動自体を見直す必要があると思われる。

## 活動を通して学んだこと

私は、野菜作りに関し無知です。どのように野菜を育てるかももちろん、雑草と野菜の芽すら勘違いするほどです。水やりなどで畑に行ったときに、近所のおばあさんが野菜の取り方などあれこれ教えてもらいました。そのようなことを通じて地域のつながりを身近に学ぶことができました。

柴田光 (電子システム工学科2回生)

野菜栽培は、野菜各々のつくり方に応じた栽培が必要であり、それについての知識と経験が必要になります。自分たちで試行錯誤しながら野菜を栽培し、無事収穫を迎えることが出来ると嬉しい気持ちと同時に達成感を得ることができます。私は活動を通じ、「野菜づくりの難しさ楽しさ」を学びました。

長澤佑樹 (生物資源管理学科2回生)

野菜作りするうえで、畑の近所の方からアドバイスをいただき、いくつもの野菜を収穫することができました。しかし、収穫時期を逃した野菜もあり、食べられるようになるまでの難しさを身を持って知りました。

柴田彩佳 (生物資源管理学科2回生)

地域の小学生と、さつまいも掘りや餅つきを行い仲良くなることが出来ました。こういった行事を行うにあたって保護者の方の協力が不可欠であり、保護者の方との連絡がうまくとれないこともあり、実行するのは簡単なことではないと知りました。

庄美冴子 (生物資源管理学科2回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

2012年度 開出今町子ども会会長 牧野美咲さん

1年間大変お世話になりました。イモ掘りや餅つき活動のあとには子どもたちに目線を合わせ十分関わって遊んでいただきました。普段知り合うことのない大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に活動することができ、子どもたちには身近な目標ができ、刺激になったのではないかと思います。

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部 生物資源管理学科 増田佳昭

一姓は、野菜作りを通じて地域の人たちとの交流を図る活動を続けてきて、これまで一定の成果をあげてきている。とくに、地元の子もたちとの交流は、子どもたちにとっても、また地域の大人たちにとっても有意義なものだったと思う。芋掘りなど、楽しい活動ができたようである。メンバーの固定化や下宿生の減少で運営に困難が生じているようである。漫然と活動を続けるよりも、一度足を止めて、自らの目標と存在意義を検証するのも必要なことだと思う。野菜作りと子どもたちとの交流の二兎を追うことが重荷になっているのかもしれないので、どちらに重点を置くかを再検討してみてもどうか。地域の子もたちとの交流を軸に活動を位置づけ直すことも一つの可能性かもしれない。自分たちのやってきたことにもう少し自信を持って、今後の方向を考えてみてほしいと思う。

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



芋掘りイベントチラシ



もちつきイベントチラシ

# 18 バンデイラ・ジ・オウロ（金の旗）



## 県大発！大好きブラジルプロジェクト！

ブラジル人学校とブラジル人保育園兼学童での日本語指導を行っています。継続的に学習できる環境を創り出し、長期的には「自立」を図ることを目標にしています。

### TEAM DATA

チーム名：チーム・バンデイラ・ジ・オウロ

代表者：石田みずき（環境科学部）

メンバー数：14名

指導教員：河かおる、武田俊輔（人間文化学部）、  
泉泰弘（環境科学部）

活動場所：彦根市、愛荘町、近江八幡市

関係団体：ワールド・アミーゴ・クラブ

近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

### (1) 放課後学習支援事業



クリスマス会@ペケーノ (12/22)

### (2) レクリエーション事業

★見出し写真：ハロウィン@サンタナ (10/31)

### (3) 進学サポート事業

### (4) 研修事業

### (5) 情報発信事業

### (6) 彦根市教育委員会とのコラボイベント

### (7) 「湖風祭」での出店



湖風祭出店 (11/10)

### (8) 「学園祭」へのボランティア参加

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は活動に大きな変化の兆しが見えた年であった。昨年度までの反省を生かし活動に取り組んだことに加え、彦根市の教育委員会の方との関わりを持てたことで、活動の幅を広げることができた。

設立当初から関わりを持っているペケーノ・ポレガールでの活動では、小学生の学習支援や就学前の子どもの保育のサポートを毎週継続的に行うことができた。コレジオ・サンタナでの活動では「レクリエーション事業」として月一回工作などの企画授業を行うことで、子どもに日本文化や日本語に触れてもらう機会を提供した。今年度は「菜の花エネルギー」と協働して、一味違った授業を展開することもできた。今年度から内容を新たに始めた「進学サポート事業」では、毎週土曜日に「ワールド・アミーゴ・クラブ」が主催している勉強会にボランティアスタッフとして参加し、指導のノウハウや組織運営などを学ぶことができた。「研修事業」では、いつもの活動だけでは分からない外国人児童の実態が見えてきて、私たちに何ができるのかということを考え直す機会となった。「情報発信事業」では、情報の発信の重要性を感じながらも、ブログの更新等が停滞し、うまく事業を進めることができなかった。今年度の活動で一番反省すべき点である。来年度からメンバーが入れ替わるので、この事業がしっかり進められるように体制を組みたい。

申請時にはなかった内容であるが、彦根市の教育委員会の方と繋がりを持てたことで、中央中学校においての学習支援活動、市内の外国人児童を対象としたレクリエーションを行うことができた。今後こういった活動を中心としていくように考えている。その上で、今までの活動をどのように並行して進めていくかが今後の課題である。



# 19 人々とのふれあいを通じてその人らしい生き方を志向する未来看護塾



## 心も体も健康に！

子どもや高齢者、障がいの有無に関わらず、地域の方々を対象に幅広く活動しています。人との触れ合いの中で、コミュニケーションや健康について私たち自身が将来に必要な力を活動の中で養い、身につけていきます。

### TEAM DATA

チーム名：未来看護塾

代表者：村井綾花（人間看護学部）

メンバー数：68名

指導教員：伊丹君和（人間看護学部）

活動場所：彦根市内、宮城県南三陸町の浦

関係団体：彦根市立病院、NPO法人ぼぼハウス、城南保育園

近江楽座活動年度： **H16** **H17** **H18** **H19** **H20** **H21** **H22** **H23**

## PROJECT

## 実施事業

- (1) ぼぼハウス「はばたけ！チャレンジャー」
- (2) 田の浦「いきいき健康ひろば」



いきいき健康ひろば 足浴 (02/24)

- (3) 彦根市立病院「病院まつり」  
★見出し写真：病院祭りちびっこ広場 (05/26)
- (4) 湖風祭「ちびっこ広場」、  
図書をつどい「ちびっこ広場」
- (5) 城北小学校学童での活動
- (6) 野瀬町「地藏盆」
- (7) ビバシティ「生き活き健康支援活動」
- (8) 田の浦 親子イベント「みんなであそぼう！」
- (9) 彦根市立病院「クリスマス会」



彦根市立病院 クリスマス会 (12/15)

- (10) 特定非営利活動法人 NPO ぼぼハウスでの活動

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

今年度の大きなイベントでもあったビバシティでの「生き活き支援活動」では、普段活動している1・2回生だけではなく、1～4回生、未来看護塾の教員、未来看護塾の卒業生にも参加していただくことで、柔軟に対応ができた。1・2回生にとっては先輩方の地域の方との交流の仕方を間近で見る良い機会にもなり、コミュニケーション方法、健康に関する専門的な知識など学ぶことが多かったと思う。毎年継続している未来看護塾ならではの縦のつながりを活かした活動が行えたと思う。

昨年に引き続き行った、10月、2月の宮城県南三陸町での活動では、徐々に現地の方との関係性を築き始めることができていると感じる。特に2月の「いきいき健康ひろば」は未来看護塾が主催で一から企画を行ったが、主に健康を焦点にあてた内容で、普段の看護の勉強を交えながら、被災地でできる活動を考えた。企画から自分たちの力で考えることで、学生一人ひとりの企画力、実行力が養われたと考える。また、現地の方たちと話す機会がたくさんあり、そのなかで被災地の生の声を聴くことができ、いま自分が何ができるのか、学生一人ひとりが考える良い機会になった。被災地での活動では、現地のニーズを取り入れた内容の活動が求められる。遠い被災地ではあるが、現地のニーズを取り入れた活動ができるよう、情報収集に力を入れることが必要だと考える。

未来看護塾の大きな課題は、それぞれの活動に参加するメンバーが固定されてしまっていること、参加人数が集まらないことが多いことである。未来看護塾の活動はますます幅広くってきているので、メンバー全員の積極的な参加が必要となる。メンバー内での情報共有をしっかりと行い、メンバーそれぞれが意識を持って活動できるよう工夫をしていきたい。

## 活動を通して学んだこと

未来看護塾の活動のなかで、幅広い対象の方々人と触れ合い、人と人のつながりの素晴らしさに気づくことができました。未来看護塾では今しかできない貴重な経験がたくさん出来ました。この経験を、看護職者を目指すうえで活かしていきたいです。

村井綾花 (人間看護学科 2 回生)

病院や施設に行く、笑顔で迎えてくださる方達がいてくださり、本当にありがたいです。初めは恥ずかしがっていた子やコミュニケーションをうまくとれなかった方と、分かり合えた瞬間がすごく好きです。距離感が縮まったとき、思わず笑顔がこぼれます。未来看護塾での貴重な出会いに感謝したいです。

齋藤紗也香 (人間看護学科 2 回生)

人と接するといっても子ども、成人、高齢者では違い、障害を持つ方と健常の方でも違う。すぐに心を開いてくれる方と開いてくれない方も違う。そしてそれぞれの御家族の方など対象に沿った関わり方をいつも考えさせられます。私の活動を通しての一番の学びはコミュニケーション方法だと思っています。

川原崎千尋 (人間看護学科 2 回生)

私は特にNPO ぼぼハウスで、障害を持つ子どもたちの調理体験やお出掛けの補助として活動させていただきました。このような活動を通してどのようにしたら子どもたちが動作しやすくなるか、動作しやすい方法を見つけてもらえるかということを考えながら関わることの大切さを学びました。

宗田千聖 (人間看護学科 2 回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

特定非営利活動法人 NPO ぼぼハウス 福井久美子さん

「未来看護塾」の皆さんが障害児童通所施設「ぼぼハウス」と「はばたき」に顔をのぞかせてくれると子ども達の表情が変わる。特に「はばたき」の10代の子供達は、近い年齢の人に日常的に接する機会が少ないので彼ら達のボランティア表敬は、とても新鮮であり身近な情報源でもあり興味津々で接している。また私たちスタッフは、「親」の位置づけにあり信頼関係はあるものの思春期に合わせることは難しい。子どもたちは、学生と、私達とまた違った関係性を構築することで『他人と関わる力』を育んでもらっていると思う。

## 指導教員より (抜粋)

人間看護学部人間看護学科 伊丹君和

未来看護塾は「近江楽座」とともに育ってきました。人間看護学部の1期生たちが立ち上げて以来、現在は10期生の学生たちが頑張っています。病院やNPO ぼぼハウス、保育園などでの定期的な活動はもちろんのこと、「生き生き健康支援活動」も益々発展し、昨年初めて企画実施したピバシティ彦根における「応援! 生き生き健康生活」では卒業生たちの協力も得て実施され、大盛況でした。卒業生たちとの交流や活動は、学生たちのキャリア形成にもつながっていると考えます。また、宮城県南三陸町における活動も継続しており、学生たちは被災地の方々笑顔と元気を交流し合っています。このような「近江楽座」の活動は、学生の自ら学ぶ力を育てるとともに、それぞれの専門分野への興味・関心や知識・技術を高めるものであり、教育的な効果も大きいと考えています。各プロジェクトにおける学生間の縦と横のつながりの関係性はもちろん、地域住民との関係性など、自ずと社会性やコミュニケーション力の向上にもつながります。そのほか、悩み試行錯誤を重ねながら企画実施する中で、実行力と豊かな感性をも育んでいます。

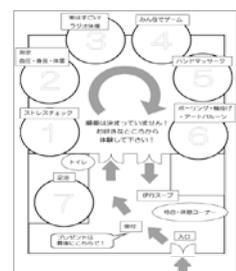
## DELIVERABLE 成果物/制作物



「図書のついで」協力者礼状受領

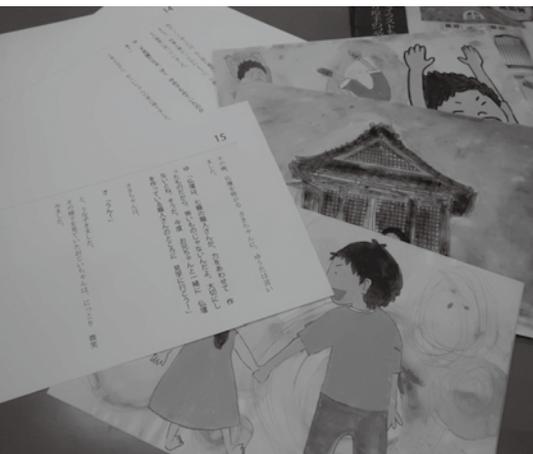


みかん通信 vol.11,12, 田の浦



スタンプラリー

# 20 七曲りでいっちょやったるか！



## モットーは楽しく面白く！

私たち「ななちよ」は、彦根市で仏壇街として有名な「七曲り」で活動しています。紙芝居の読み聞かせを通して、仏壇、仏壇職人さん、七曲りのことをもっと多くの人に知ってもらいたいと考えています。

### TEAM DATA

チーム名：ななちよ！  
代表者：村田悠喜（人間文化学部）  
メンバー数：3名  
指導教員：黒田末壽（人間文化学部）  
活動場所：彦根市  
関係団体：NPO 法人 Links  
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

- (1) パンフレット事業
- (2) イベント事業



七曲り写真イベント (07/01)



七曲りアートイベント (12/01)

- (3) 紙芝居事業 ★見出し写真：紙芝居改善 (10/20)
- (4) ミーティング、街歩き

## 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の成果は、活動を七曲り地域内だけでなく、彦根市内にも広めることができたことである。前年度は制作したパンフレットは七曲り内で配布するにとどまっていたが、今年度は彦根市観光案内所等市内数カ所に設置してもらったことで、七曲りについてより多くの人に知ってもらえる機会を作ることが出来た。設置させていただく中で、「今までは観光客の方に七曲りのパンフレットは無いかと聞かれて、渡すことができなかったのが残念だったが、これからはそれが出来る」というお言葉をいただき、このパンフレット制作活動をやってきてよかったと達成感を感じられた。

また今年度も七曲りイベント運営に関わることができた。イベントでは何を行うか具体的に決める企画会議の時に参加し、NPO、地域の方々、他団体などと多くの方と交流することができた。イベント内では昨年と同じくスタンプラリーを行えたこと、昨年度にはなかった七曲りでの紙芝居の読み聞かせを行えた。ここでは新しく作り直し綺麗になった紙芝居を使用することが出来た。

今年度を振り返ると、計画の甘さが目立った一年だったように思える。特に新紙芝居制作の計画が進まなかった。これはパンフレットの修正作業が必要になったこと、先輩方が抜けて予想していた以上に人手が足りなかったことが原因である。また、既にあるななちよ制作の紙芝居と、七曲りの方が制作された絵本との差別化を図ることが難しかったことも挙げられる。これらの問題に現時点では対策を講じられなかったので今後模索していきたい。

## 活動を通して学んだこと

近江楽座の中間発表の際、私たちの拠点となる七曲りについて全く知らない人がいることを忘れ、私たちの事業だけを取り上げて発表してしまったため、活動についてもあまり理解してもらえなかった。活動発表の際は、基本的な情報を先に示す必要があると学んだ。

廣嶋泉（地域文化学科3回生）

私は今年度の活動の中でも、特に12月のイベントを通して学ぶことが多かったように思います。イベントは参加するだけでなく、企画や運営に携わるといことの大変さを学ぶことができました。またパンフレット事業では自分たちの活動にやりがいを感じることができ、今後に繋がる一年になったと思います。

篠田佳奈（地域文化学科3回生）

今年は連絡・報告・相談の大事さを学ぶことが出来た。活動の中で情報が行き渡っていない結果起こってしまったアクシデントが多々あり、また人手が足りない分一人ひとりが最大限動くために情報の共有が必要だということも思い知った。今後は連絡・報告・相談をしっかりと行なっていきたい。

村田悠喜（地域文化学科3回生）

## 地域の方のコメント

NPO法人Links 柴田雅美さん

今年もななちよの皆さんには七曲りのイベントと一緒に作って頂きました。紙芝居や七曲りマップ、イベントへの協力等、一つ一つに感謝しきれないですが、一番嬉しいことは七曲りのことならどんなことにも関わってくれていることです。地域に暮らす者にとって、その地域は日常。イベントだけを盛大にやっても一夜明ければいつもの毎日。そんな地域に適度な関心と距離感を保ちつつ、地道な活動を継続して頂いていることに一番の感謝です。キーワードは「振り向けば、そこにななちよ!」。それがいいんじゃないかなあ。

## 指導教員より（抜粋）

人間文化学部地域文化学科 黒田末壽

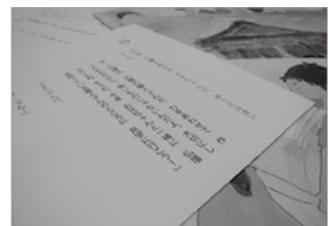
「ななちよ」は、七曲がりという仏壇職人の町を彦根の内外に知ってもらい、その歴史・風景と仏壇職の理解を深めてもらおうという、地味な活動です。こういう活動は、続けてやることで自分たち自身が、対象の地域に親しみ、魅力を発見することで内容が深まってくるものですが、まさに、その通りになっています。柴田さんが、「振り向けば、ななちよがいる」と書かれていることは、誇張ではなくななちよの姿といえます。

年度初めに計画していた新しい紙芝居制作ができなかったこと、紙芝居読み聞かせの回数が少ないこと、パンフレットのお披露目が簡単だったことなど、活動としての課題は多く残っていますが、本人たちが楽しんでできることをやってきたことは確かです。その姿を地域の人たちが当たり前のように受け取っている、そこまで、ななちよは七曲りに定着したことを評価したい。

DELIVERABLE 成果物／制作物



スタンプラリー



紙芝居の改善

# 21 とよさと快蔵プロジェクト



## 空き家を再生し、まちを元気にする

使われなくなった民家や蔵が点在する豊郷町で、まちの資産を活用し、地域を盛り上げる活動を行っています。今年度はこれまでの活動で培ってきたネットワークを活用し、町を盛り上げるサポートを行ないます。

### TEAM DATA

チーム名：とよさと快蔵プロジェクト  
代表者：宮崎瑛圭（環境科学部）  
メンバー数：30名  
指導教員：迫田正美（環境科学部）  
活動場所：犬上郡豊郷町  
関係団体：NPO 法人とよさとまちづくり委員会  
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

## PROJECT

## 実施事業

- (1) 改修活動 ★見出し写真：前田邸屋根改修 (11/23)
- (2) 展示会 (日夏町・多賀町)
- (3) 空き家を満たせ!!100人の想い出づくりプロジェクト



100人の想い出づくりプロジェクト (03/15)

- (4) 古民家レトロ市
- (5) ヨツマルシェ
- (6) プロジェクト完遂報告展+あなたのスキなコト×空き家ワークショップ
- (7) タルタルーガ リニューアルオープンイベント 立ち飲みビアガーデン
- (8) とつとまつり参加
- (9) コスモス&パンキンフェスタ



コスモス&パンキンフェスタ (10/14)

- (10) 酒蔵祭参加

## 1年の活動まとめ・考察 (成果と課題) (抜粋)

今年度までの数年間、地域貢献活動という難しいテーマの中で今後の方向性に悩み、活動が停滞していた。もちろんまちあるきやイベントを通じて方向性や可能性を必死に探し議論し合った経験は今でもなくてはならない財産になっているが、逆に深く考えるあまり足取りが重くなり学生の特権である行動力を活かせず、結果的に大きな達成感を得ることができなかった。その証拠に年度初めに比べだんだんと主体的に活動するメンバーが減ってゆき昨年度末に残っていたのは10名あまりの、しかも1・2回生だけであった。そんな中スタートした今年度、プロジェクトとしてではなく団体としての大きな目標として「楽しむこと」を心がけ、新1回生はもちろん、メンバー全体が大きな負担になることなく今年一年を楽しみ、来年度やその先にモチベーションを残せるような団体を目指した。そのためには上回生がスムーズに計画を進め、結果を明確に感じられる活動にする必要があり、これまで以上に計画力や企画力が求められる1年だった。前期はやはり力不足な点もあり計画が滞ったりメンバー間のコミュニケーションが薄れたりもしたが、昨年度中心となって動いてきた3回生で対策をとり、後期は上回生と下級生とが協力してイベントや改修を行うことができた。こうした努力の甲斐あってか、1回生や2回生も「来年度からもっと自分で考え行動したい」、「こうすればうまくいくのではないか」といった意識を持ってもらうことができた。今年度の活動を経てやっと力ある上回生と、モチベーションの高い下級生がそろい、メンバー全体が活動を楽しむ気持ちを持って来年度に臨む体制ができたように思う。まちづくり、地域貢献活動という困難なテーマであるが、だからこそ学生らしさを活かして来年度も楽しんで活動を続けたい。

## 活動を通して学んだこと

今年度最大の収穫は計画力と行動力がついたこと。代表として全体を見ながら計画する中で、人に仕事を頼むためにまず何をすれば目標を達成できるかを考え道筋を描く必要があった。それにはこれまでにない難しさと責任が伴ったが、それを曲がりなりにも乗り越えたことで自分に自信を持つことができた。

宮崎瑛佳（環境建築デザイン学科 3 年生）

地域とどう関わっていくのか、すごく考えさせられた1年でした。私自身は豊郷町に住んでいることもあり、個人としてという部分もありましたが、プロジェクトとしては学生さんであった。行動を起こすことはできても、巻き込んでいくこと、ちゃんとお話ができることの難しさを改めて思いました。

藤澤泰平（環境建築デザイン学科 3 年生）

日夏町では、まちの伝統を守る活動の裏には深いリサーチがあることを知り、多賀町では、前田邸の古い詩集からまちの人たちからも聞くことができない当時の交流の様子を読み解いていただいた。地元の人が忘れてしまったことにも気がつき、見直す。ひとつの外からの見方に気づくことができた。

高橋朋之（環境建築デザイン学科 3 年生）

工程や予定を守りながら改修していく難しさを痛感した一年。人手不足や材不足となかなか思うようにはいかず、自分も改修の中心にいたにも関わらず知らない事が多かった事が原因だった。しかしその分学ぶところがたくさんあり今後の課題として頑張っていきたいと思えます。

林操輝（環境建築デザイン学科 2 年生）

## 地域の方のコメント（抜粋）

とよさとまちづくり委員会代表 北川 稔彦さん

共に活動して来て10年目に入ろうとしています。ここ数年はまちづくり委員会のメンバーが年を重ねてきた事もあり、他との関わりも忙しく、なかなか作業を共にすると言うことも難しく心苦しく感じています。しかし、コミュニケーションをとる中で、楽しくまちづくりを進めていきたいことや、共通の話題で話して夢中になると年齢差も感じないくらいです。年ごとに学生さんも徐々に変わってはいきますが、前向きで熱い思いを持って関わってくれているからこそだと思います。これからも、楽しく活発に活動して行きたいと思えますので、よろしくお願いします。

## 指導教員より

環境科学部 環境建築デザイン学科 迫田正美

3年前、1年生として活動に加わってくれた現在のリーダーたちが模索してきた、新しい快蔵プロジェクトのカタチが見えてきた一年であったように思う。この数年をかけて取り組んできた前田邸の改修とイベントスペースとしての活用に取り組み、学生メンバーでプログラムから組み立て、「満ち家」プロジェクトとして具体化したことは大変意義のあることであった。また、Bar タルタルーガの経済的問題や運営の問題にも克服への目途をつけてくれたことも含め、地域での自律的かつ持続的な活動へ向けた取り組みとして大いに評価したい。ひとつ注文をつけるとすれば、プロジェクトに協力・参加していただいた地域やその他の方々とのつながりを大切にし、1回限りにしない姿勢を形に表してほしい。来年度以降も続くような関係づくりを望む。

## DELIVERABLE 成果物／制作物



イベント、展示ボード



カイソウノススメ3（冊子）



想い出づくりプロジェクト等チラシ

## 22 たけとも一竹の会所 友の会



### 被災地に " 未来を語り合える場 " を

“未来を語り合う場”“子どもたちのために”。4年間の整備・メンテナンス・イベント・WSなど、竹の会所を通して地域の方々と未来を築ける場を作ります。

#### TEAM DATA

チーム名：たけとも一竹の会所 友の会

代表者：鳴海友貴（環境科学研究科）

メンバー数：16名

指導教員：陶器浩一、永井拓生（環境科学部）

活動場所：宮城県気仙沼市本吉町

関係団体：株式会社 高橋工業

近江楽座活動年度：(H16) (H17) (H18) (H19) (H20) (H21) (H22) (H23)

#### PROJECT

#### 実施事業

##### (1) たけとも夏祭り



企画会議 (11/11)



朗読会打ち合せ (09/01)

##### (2) 会所補修ワークショップ

##### (3) たけとも祭り 冬の集い

★見出し写真：活動の記録展

### 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

『たけとも1年目』 たけとも - 竹の会所・友の会 - は、始動して1年目。

5月、6月、9月、12月と計4回のイベント・メンテナンスを気仙沼本吉町にある竹の会所で行った。当初は年2回のWSを予定したが、イベントを開催の機会を頂いたり、またメンテナンスが必要になり、合計4回のWSとなった。2年目からは1年目の計画を参考にし、1年間の計画を立てていきたいと思う。

イベントとしては、写真展、模型展、屋台、クイズ大会、遊具製作イベント。東京藝術大学の学生さん、フジテレビさんとのコラボ企画。また平磯芸能保存会さんには伝統芸能「平磯虎舞」を披露していただいた。多くのイベントで地元の方々、子どもたちに楽しんでもらえ、また私たちが一緒に楽しむ事が出来た。

夏には「平磯虎舞」を演技していただき、地域の方々、子どもたちと協力してイベント開催をすることができた。2年目、今後は私たちと地域の皆さんとの意見交換を行う機会を設けること、私たちがそのようなイベントを提案することで、地域の皆さんと一緒に企画がこれから少しずつでも増えていけばと思う。

『2年目そしてその先も』 たけとも1年目、訪れる方々の「笑顔」が竹の会所に集まり、会所は大きな笑顔の花であふれていたように思う。今年からたけともは2年目になる。1年間通してのテーマ、WSごとのテーマを持って、初年度の経験を生かし活動していきたい。来年度、再来年度も「笑顔があふれる場」であるために後輩たちに引き継ぎながら、イベント、メンテナンスを行い地域の方々の心の復興のお手伝いをさせて頂きたいと思っている。

## 活動を通して学んだこと

高台に建つ「竹の会所」から望む海は今日も朝日に照らされ、何十隻もの漁船のシルエットが浮かんでいる。「たけとも」の活動を通して、津波に負けない、海と共にこれからも生きていくまちのエネルギーを肌で感じてきた。震災から早くも2年が経ち、初期の「たけとも」メンバーがどんどん卒業している。私がすべきことは、このまちのエネルギーを後輩たちに伝え、引き継いでいくことだ。

松本洋太 (環境科学研究科環境計画学専攻 1 回生)

今年度の活動では、竹の会所を通してたくさんの地域の方々と関わることができた。ワークショップに参加することで、まちの変化や子ども達の成長を見続けることができる。また、回を重ねるごとに、少しずつではあるけれど、竹の会所が地域の場所へと歩みつつあることを感じることができ、とても嬉しく思う。

小池真央 (環境建築デザイン学科 4 回生)

## 地域の方のコメント (抜粋)

(株) 高橋工業 高橋和志さん

被災地の集会所の必要性はどの地域でも問われていますが、形にするためには長い時間がかかり、その間にみんな町から出て行ってしまふ。そうすると子どもたちは生まれ育った地元に対して震災の嫌な思い出しか持たなくなってしまうでしょう。

しかし、「家が流されたけれど、お兄さんやお姉さんが来てくれて一緒に楽しく遊んだ。それは竹でできたまあい建物だったな」と、この場所の記憶が、子どもたちが大人になった時に蘇ることでしよう。“たけとも”の皆さんたちの頑張りが時間と空間を超えて伝わってゆくのだと思います。地域の生活や生き方を考えながら、住んでいる私たちの目線で「そっと寄り添う」彼らの活動は、被災地で学生に何ができるかという問いに対する一つの答えを示していると思います。

## 指導教員より (抜粋)

環境科学部環境建築デザイン学科 陶器 浩一

本活動は、東日本大震災で深刻な被害を受けた被災地に学生たちが自力で建設した「竹の会所」を舞台として、学生たちと地域の子ども達が定期的・継続的な交流を行い、お互いに学び、楽しむことにより、生き活きと成長する環境をつくる、知育体育の場、多様多彩な“みんなが集まる場”創生を通じて、地域再生の寄与と地域再生の方法について相互に学ぶことを第一の目標にしている。学生たちは、イベントを開催するだけでなく、地域との関わり方の基本(謙虚さ、丁寧さ、気配り、献身性、自発性など)を滞在しながら学んだ。子ども達が生き活きと暮らすまちづくりの一助となること、夢ある将来を描くことに若い感性を反映させ、将来の、地に足の着いた活動とそれを担う人材が育ってほしいと願っている。

## DELIVERABLE 成果物 / 制作物



たけともだより



夏祭りポスター

## 23 喫茶ラリルレトロを核にした子ども商店街への展開



### 能登川をもっと魅力的にする会

東近江市にある能登川駅前商店街は衰退しつつあります。昔懐かしい雰囲気が残っている能登川駅前商店街を、昭和・レトロなかふえを発信源として、人と人とをつなげ、活性化を目指します。

#### TEAM DATA

チーム名：能魅会（のみかい）  
代表者：岡村友香（環境科学部）  
メンバー数：13名  
指導教員：近藤隆二郎（環境科学部）  
活動場所：東近江市能登川町  
関係団体：NPO法人エトコロ  
近江楽座活動年度： H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23

#### PROJECT

#### 実施事業

##### (1) ラリルレトロカフェ



カップケーキ (12/02)

##### (2) 子ども企画



駄菓子屋の様子 (08/25)

★見出し写真：  
子ども企画に遊びに来てくれた子ども達と (5/12)

### 1年の活動まとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動の成果は3つ挙げられる。1つ目は、活動の知名度が上がったことである。様々なメディアへの露出も多く、それを通じて来店して下さったお客さんもいた。2つ目は、小学生を中心に幅広い層のお客さんが来店して下さったことである。小学校校門前でのチラシ配りが成功し、たくさんの子どもたちが足を運んでくれた。3つ目は、他団体さんと共同でイベントを行うことにより、学生の力だけでは不可能だったイベントを企画することができたことである。大きな企画を催すことで、商店街にお祭りのようなにぎわいが生まれた。時間はかかるが、そうした小さなことの積み重ねでまちはどんどん元気になっていくと確信することができた。以上の3つが今年度の活動の成果であり、来年度はこれらをさらに発展させていけるように努力していきたい。

次に今年度の活動の課題である。1つ目は、混雑時には料理の雑さが目立ったことである。来年度は料理の作り方にも工夫をする。混雑時で忙しくあっても料理にばらつきのないよう、簡単な過程の料理にする、ストックを切らさないようするなど、作る過程に工夫を凝らしたい。2つ目は、レトロな内装を追求することができなかったことである。また、レトロの認識が人によって違ってくるため、何をもってしてレトロと呼べるのかが曖昧だったということが内装を後回しにしてしまった要因でもある。今年度で新しい事業も波に乗ってきているため、来年度はレトロと真剣に向き合っていきたい。

## 活動を通して学んだこと

今年からアンケートを実施した。お客様とのふれあいは、ピーク時は難しく、お客様とつながりが持てるよいツールだった。それぞれ色んな理由、つながりで来店して下さるということが分かり、応援のメッセージも多く励みになった。直接言いにくい意見などもあり、気づけなかったこともありためになった。

後藤美稀（環境政策・計画学科3回生）

アンケートの意見を一つ一つ大切にし次に繋げる努力はできていたのか見直す必要があると思う。そして私たちがやりたいこと、伝えたいことの軸はしっかりと皆の共通意識として保ちつつも（もっとこれはしっかりと持つべきだった）、必要に応じ柔軟に決まりに縛られず活動することが大切であると感じた。

貝屋こころ（人間関係学科3回生）

イベントにあわせてカフェを開催することで、楽しみながらカフェで一息ついてもらい、他の地域からカフェに来てくださったお客さんが能登川のレトロな情景にふれてもらうことで、ちょっとずつではあるがこのラリルレトロカフェが能登川の魅力を伝えることができていたのではないかと感じた。

坂上榛菜（生活デザイン学科1回生）

最初は活動内容が楽しそうだからといった理由で参加していました。しかし活動を続けていくうちに、能登川という地域がとても好きになりました。活動を続けて、地域になじんできていると感じています。能登川をもっとたくさんの人に知って欲しい！もっと良い空間にしたい！という気持ちでいっぱいです。

生田遥（環境政策・計画学科2回生）

## 地域の方のコメント

子林家エトコロ理事長 河島正行さん

去年と比べて集客をできていて良かった。子ども企画やイベントなど、様々な工夫ができていた点については良かった。一方で、2年目というのは一番難しい。どこに着目して、カフェを運営していくのかをしっかりと持つことが大切である。自分自身としては、地元の人々の利用をもっと増やしてほしいと感じた。

## 指導教員より（抜粋）

環境科学部 環境政策・計画学科 近藤隆二郎

今年度のレトロカフェは、2年目ということもあって、余裕をもってはじめられたと思います。継続的な回数増加や集客増は、地道に地域でのチラシ配布などが徐々に浸透してきたものと思われます。また、子ども企画というキラーコンテンツがあることで、子ども、そして子どもとおかあさんといった層に対してのカフェというポジションができたのも良かったです。イベント演習としても実施した「のとがわ子どもアワー」は大盛況となりました。ただ、課題としては提供メニューの特色化があるでしょう。有料で出すということの厳しさをもっと受けとめて、素材をこだわるのか、コンセプトにこだわるのか、味にこだわるのか、何なのかを年間通して明確にすることが大事です。

自分たちがやりたいことと、地域の人、お客さんが求めていることとをしっかりと聞いてすりあわせた上ですることが大事です。レトロというキーワードもどう平成生まれの立場から意味づけるかも求められるでしょう。また、今後としては場所代も含めた自立化、さらにはスタッフバイト代も出せるほどのコスト感覚を是非試して欲しいです。

DELIVERABLE

成果物／制作物



カフェチラシ毎月4-12月分



子どもチラシ毎月4-10月分



のとがわ子どもアワー

# 01 Shiga 食育推進プロジェクト

## 2-2 『らくざしんぶん』

チームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「チームのビッグニュース」②「プロジェクト紹介」③「プロジェクト自慢」④「地域の声」⑤「成果と課題」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページに、カラー版のPDF ファイルを掲載しています。ぜひご覧ください。

近江楽座 HP: <http://ohmirakuza.net/>



# 02 あかりんちゅ



# 03 内湖の侵略的外来種駆除





# 08 ART FORUM 2012 DIG'S

### キッズ学習プロジェクト

## 夏のワークショップ開催!! 八幡の自然でつくる 私の楽器!



「夏のワークショップ開催!! 八幡の自然でつくる 私の楽器!」を開催しました。参加者は、八幡の自然の中で、木の葉や草花などを使って、自分だけの楽器を作りました。夏休みの思い出として、ぜひ覚えておきたいイベントです。

## DIG'S 新聞

8月21日  
発行  
発行所  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-5561-1111

### DIG'sってなに?

近江八幡町の地域に根ざした社会活動。多くの方に参加。北の国新聞社が主催です。

地域を盛り上げるのが目標です。また、地域に貢献することを目的として、地域を盛り上げ、自分たちの地域を盛り上げます。

### 木興プロジェクトとは

木興プロジェクトとは、近江八幡町の地域に根ざした社会活動。多くの方に参加。北の国新聞社が主催です。

### ちょっと聞いてよ! プロジェクト自慢!

みんな好きなことしています。

### 地域の方からのメッセージ

地域の方からのメッセージ。みんな好きなことしています。

### 2012年度の成果と課題

2012年度の成果と課題。みんな好きなことしています。

# 09 木興プロジェクト

## 木興プロジェクト

田の浦地区集会所「ニューたのうらセンター」を建てて



### 木興プロジェクトとは

木興プロジェクトとは、近江八幡町の地域に根ざした社会活動。多くの方に参加。北の国新聞社が主催です。

### 木興プロジェクトの目的

木興プロジェクトの目的は、近江八幡町の地域に根ざした社会活動。多くの方に参加。北の国新聞社が主催です。

### 木興プロジェクトの活動内容

木興プロジェクトの活動内容は、近江八幡町の地域に根ざした社会活動。多くの方に参加。北の国新聞社が主催です。

### 木興プロジェクトの成果

木興プロジェクトの成果は、近江八幡町の地域に根ざした社会活動。多くの方に参加。北の国新聞社が主催です。

# 10 あづちのえきづくり

## あづちのえきづくり

### 100周年の安土駅を考える

あづちのえきづくり。100周年の安土駅を考える。



あづちのえきづくり。100周年の安土駅を考える。

# 11 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

## Harmony 新聞

### 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト。



障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト。









### 3 共通プログラムの報告

### 3-1 中間報告会「伝えよう！活動のあしあと展」



2012年度の中間報告会は、以下の点を目的として開催しました。

#### 1. 活動の振り返り、記録

チームが前半に行った活動を事業ごとにきちんとまとめることで、活動を客観的に振り返るとともに、活動を継続していく上で重要な「活動記録」をチームに残していく。

#### <中間報告会 日程、グループ分け>

	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
日時	10月29日(月) 18:10～	10月30日(火) 18:10～	10月31日(水) 18:10～	11月1日(木) 18:10～
会場	交流センター 研修室 1,2,3			
参加チーム	県大地域食育推進隊	スチューデント・キュレーターズ	ほたてあかりプロジェクト	滋賀県大 BASSER'S
	木興プロジェクト	菜の花エネルギー	信・楽・人	DIG'S
	ボランティアサークル Harmony	未来看護塾	おくとらプロジェクト	バンデイル・ジ・オウロ
	ななちよ!	とよさらだ	かみおかべ古民家活用計画	とよさと快蔵プロジェクト
	能魅会	あづち一む	Taga-Town-Project	たけとも
	あかりんちゅ	cococu	—	一姓

#### 2. 活動の過程・ノウハウを後輩に伝える。共有する。

それぞれの世代やフィールドでメンバーが得た「学び」は、チームにとって、近江楽座にとっても、とても大きな財産といえる。

しかし、このような個人の「学び」は、意識しないと伝わることなく途絶えてしまいがちであり、現在一緒に活動している後輩や、これから活動に加わる後輩のために、それらのものを形にして伝えることが重要である。同時に色々なチームの学びを共有して、後半の活動がより充実したものになっていくことを目指す。

#### <プログラム>

1. 各チームからの活動報告 (1チーム4分, 計30分)
2. 「活動記録シート」へのコメント (約30分)
3. コメント共有、アンケート記入 (約30分)
4. 交流会

### Ⅰ 第1部 各チームからの活動報告

各チームの前半の活動をまとめ、発表してもらいました。発表は、活動の“結果”についてだけでなく、“計画”や“準備段階”での反省点やコツなどについても触れてもらいました。

## | 第2部 「活動記録シート」へのコメント

参加者に付箋にコメントを書き出してもらいました。会場には、各チームの発表内容をまとめた「活動記録シート」を展示。そこに付箋を貼り出してってもらいました。

## | 第3部 共有

付箋に書かれた内容を、参加者で共有しました。コメントの共有の際は、先生や学生に進行してもらいました。会場やチームから質問や返答をしてもらいながら、1チームずつ、付箋をみながら、展示を回っていききました。

コメント共有のおわりに、成果物の紹介や今後の活動のお知らせなどをするチームもたくさんあり、活発に情報交換が行われました。

3部すべてのプログラムを終えてから、参加者にアンケートを記入してもらいました。報告会の進め方やチームの活動内容についての意見を各回で得ることができ、軌道修正しながら開催することができました。特に、全4回のうち2回以上参加する「地域実践学Ⅱ」の履修生の意見は参考になりました。

## | 交流会

各回の終了後は、交流の場をもちました。「ブルスケッタ」(イタリア語の方言で「焼いたパン」という意味)を食べながら、なごやかに話せる時間をもちました。

## | まとめ

参加者は全4回で合計137名。各チームの前半の活動を、「活動記録シート」および「発表」という形でまとめてもらい、チームでしっかりと活



期間中、研修室にて各チームの発表内容をまとめた「活動記録シート」を展示



第1部 チームからの活動報告



発表は、活動の「結果」についてだけでなく、「計画」や「準備段階」での反省点やコツなどを意識して伝えてもらいました

活動をふりかえってもらう機会をめざしました。発表時間が4分と短く、コメントを出してもらうには十分ではなかったかもしれませんが、コメントを付箋に貼り出して、参加者で共有するプロセスに対して、よい評価が多く見られました。学生たちの進行も、とてもスムーズでした。互いに学び合い、活発に情報交換を行うことで、今後の活動や学生たちの成長が期待できる報告会となりました。



第3部 付箋に書かれた内容を参加者で共有



第2部 付箋にコメントを書き出し



1チームずつ付箋を見ながら質問と回答をして回る  
進行は回答とは別のチームが交代で行う



「活動記録シート」に付箋を貼りだす



チーム同士、自由に話せる時間として  
終了後は手作りおつまみで交流会

<p>食育で笑顔をもっと元気に！</p> <p><b>Shiga 食育推進プロジェクト</b></p>  <p>Shiga食育推進プロジェクト</p>	<p>リサイクルキャンドルでスローな夜を</p> <p><b>あかりんちゅ</b></p>  <p>あかりんちゅ</p>	<p>守ろう！琵琶湖の生態系！</p> <p><b>内湖における侵略的外来種駆除</b></p>  <p>内湖における侵略的外来種駆除</p>	<p>菜の花から始まる資源循環の輪</p> <p><b>菜の花エネルギー</b></p>  <p>菜の花エネルギー</p>
<p>通買の暮らしの魅力を伝える</p> <p><b>cococu -おうちの暮らしかたろく-</b></p>  <p>cococu -おうちの暮らしかたろく-</p>	<p>多買の「ステキ」を探し・広める</p> <p><b>Taga-Town-Project</b></p>  <p>Taga-Town-Project</p>	<p>野雷で雷がら、地産の糧</p> <p><b>とよさだプロジェクト</b></p>  <p>とよさだプロジェクト</p>	<p>菜の花エネルギー</p> <p>近江八幡の魅力を掘り出そう！</p> <p><b>ART FORUM 2012 DIG' S</b></p>  <p>ART FORUM 2012 DIG'S</p>
<p>通買の暮らしの魅力を伝える</p> <p><b>cococu -おうちの暮らしかたろく-</b></p> <p>運る！復興支援。</p> <p><b>木興プロジェクト</b></p>  <p>木興プロジェクト</p>	<p>多買の「ステキ」を探し・広める</p> <p><b>Taga-Town-Project</b></p> <p>えきづくりでまちづくり！</p> <p><b>あづちのえきづくり</b></p>  <p>あづちのえきづくり</p>	<p>野雷で雷がら、地産の糧</p> <p><b>とよさだプロジェクト</b></p> <p>画しながら暮らし</p> <p><b>障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト</b></p>  <p>障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト</p>	<p>菜の花エネルギー</p> <p>近江八幡の魅力を掘り出そう！</p> <p><b>ART FORUM 2012 DIG' S</b></p> <p>地域とともに歩む博物館づくり</p> <p><b>地域博物館プロジェクト</b></p>  <p>地域博物館プロジェクト</p>
<p>歴史ある高宮に新たな風を</p> <p><b>おとくらプロジェクト</b></p>  <p>おとくらプロジェクト</p>	<p>地域よし×字生よし×家主よし</p> <p><b>かみおかべ古民家活用計画 SLEEPING BEAUTY</b></p>  <p>かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-</p>	<p>野雷で雷がら、地産の糧</p> <p><b>とよさだプロジェクト</b></p> <p>障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト</p> <p>歴史ある昔家の今をコーディネート</p> <p><b>債・楽・人 shigaraki field gallery project</b></p>  <p>債・楽・人 shigaraki field gallery project</p>	<p>菜の花エネルギー</p> <p>近江八幡の魅力を掘り出そう！</p> <p><b>ART FORUM 2012 DIG' S</b></p> <p>地域博物館プロジェクト</p> <p>被災地と関西をつなぐ響け橋に！</p> <p><b>ほたてあかりプロジェクト</b></p>  <p>ほたてあかりプロジェクト</p>
<p>おとくらプロジェクト</p> <p>人と人をつなぐ野菜づくり！</p> <p><b>一姓</b></p>  <p>一姓</p>	<p>地域よし×字生よし×家主よし</p> <p><b>かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-</b></p> <p>県次期！大好きプラザプロジェクト</p> <p><b>バンデイル・ジ・オウロ</b></p>  <p>バンデイル・ジ・オウロ</p>	<p>野雷で雷がら、地産の糧</p> <p><b>とよさだプロジェクト</b></p> <p>障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト</p> <p>歴史ある昔家の今をコーディネート</p> <p><b>債・楽・人 shigaraki field gallery project</b></p> <p>心も体も健康に！</p> <p><b>未来看護塾</b></p>  <p>未来看護塾</p>	<p>菜の花エネルギー</p> <p>近江八幡の魅力を掘り出そう！</p> <p><b>ART FORUM 2012 DIG' S</b></p> <p>地域博物館プロジェクト</p> <p>被災地と関西をつなぐ響け橋に！</p> <p><b>ほたてあかりプロジェクト</b></p> <p>モットーは楽しく面白く！</p> <p><b>七歳りでいっちょやったるか！</b></p>  <p>七歳りでいっちょやったるか！</p>
<p>おとくらプロジェクト</p> <p>人と人をつなぐ野菜づくり！</p> <p><b>一姓</b></p> <p>空き家を再生しまちを元気にする。</p> <p><b>とよさと快蔵プロジェクト</b></p>  <p>とよさと快蔵プロジェクト</p>	<p>地域よし×字生よし×家主よし</p> <p><b>かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-</b></p> <p>県次期！大好きプラザプロジェクト</p> <p><b>バンデイル・ジ・オウロ</b></p> <p>被災地に「未来を語り合える場」を</p> <p><b>たけとも一竹の会 友の会</b></p>  <p>たけとも一竹の会 友の会</p>	<p>野雷で雷がら、地産の糧</p> <p><b>とよさだプロジェクト</b></p> <p>障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト</p> <p>歴史ある昔家の今をコーディネート</p> <p><b>債・楽・人 shigaraki field gallery project</b></p> <p>心も体も健康に！</p> <p><b>未来看護塾</b></p> <p>龍胆川をもっと魅力的にする途</p> <p><b>能魅会 (のみかい)</b></p>  <p>能魅会 (のみかい)</p>	<p>菜の花エネルギー</p> <p>近江八幡の魅力を掘り出そう！</p> <p><b>ART FORUM 2012 DIG' S</b></p> <p>地域博物館プロジェクト</p> <p>被災地と関西をつなぐ響け橋に！</p> <p><b>ほたてあかりプロジェクト</b></p> <p>モットーは楽しく面白く！</p> <p><b>七歳りでいっちょやったるか！</b></p> <p>七歳りでいっちょやったるか！</p>

各チームの「活動記録シート」(チーム概要)

## 3-2 近江楽士(地域学)副専攻

本学の特徴を活用して、コミュニケーション力、行動力、問題解決力を高める全学共通の地域教育制度として近江楽士(地域学)副専攻が設置されて2年目となり、近江楽座と連携して、次の正規科目を実施しました。

### | 地域実践学実習Ⅰ、Ⅱ

近江楽座を体験し(楽座インターン)、地域活動の実践について現場で学ぶとともに、地域活動の実践に必要な企画、マネジメント、情報発信などのスキルを修得する。楽座インターンにおいては、プロジェクトの長所および課題等の分析を行い、自ら地域貢献プロジェクトの企画立案が行えるようになることを目的としています。昨年度の試行授業を踏まえ、本年度から正式スタートしました。

#### <授業実施状況>

#### ● 地域実践学実習Ⅰ(履修者 23名)

▽4月11日(水) 6限(A2-202) オリエンテーション

▽4月14日(土) 9:30~18:00 (A3-301)

地域実践活動事例分析 1-5

近江楽座成果報告会を聴講し、レポートを作成

▽5月19日(土) (A3-301) 地域実践手法 1-4

9:00~13:00 近江楽座公開プレゼンテーションを聴講し、レポートを作成

13:10~14:40 インターンガイダンス

▽6月1日(金)~9月27日(木) 楽座インターン 1-4

2つ以上のプロジェクトに参加すること。

インターン先のチームと各自日程等の調整。

◇活動証明カードの記録(活動参加毎)と活動担当者の確認

◇活動報告の提出(ポータルサイトにて)

(楽座チームのメンバーになっている学生は楽座での活動をインターン体験に読み替え)

▽9月28日(金) 14:50~16:30

(交流センター研修室 1~3) 地域実践手法 5

インターン活動報告と意見交換

#### ● 地域実践学実習Ⅱ(履修者 32名)

※うち昨年度の試行授業終了者は 8名

▽10月5日(金) 12:20~13:00 (A2-201)

オリエンテーション

▽10月15日(月) 6限 (A2-202) 地域実践手法 1

楽座インターン説明

▽10月1日(月)~2月28日(木) 楽座インターン 1-4

2つ以上のプロジェクトに参加すること。

インターン先のチームと各自、日程等の調整。

◇活動証明カードの記録(活動参加毎)と活動担当者の確認

◇活動報告の提出(ポータルサイトにて)

(楽座チームのメンバーになっている学生は楽座での活動をインターン体験に読み替え)

▽10月29日(月)~11月1日(木) 6限

地域実践活動事例分析 1~2

近江楽座中間報告会「伝えよう!活動のあしあ

と展」4回のうち2回に参加し、レポートを作成

▽12月15日(土) 13:00 ~ 16:30

地域実践活動事例分析 3-5

環びわ湖大学地域交流フェスタ(長浜バイオ大学)を聴講し、レポート作成

▽2月17日(日) 13:00 ~ 16:30

(交流センター研修室 1~3) 地域実践手法 2-5

インターン活動報告と意見交換、企画書作成の

ノウハウに関する講義・ワークショップ

## | 地元学入門

地元学入門は、「地域に学ぶための基礎的理論や手法を習得する」ことを目的とした講義です。

近江楽座担当教員によるオムニバス形式で「近江楽座」の実施プロジェクトを題材に、学生力を生かした地域貢献活動について学びます。プロジェクトの学生メンバーがゲストスピーカーとして活動報告を行いました。受講生は環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の全学部の1回生が中心となっています。

- ▽10月29日(月) 近江楽座事務局
- ▽11月5日(月) 県大BASSER'S、菜の花エネルギー
- ▽11月19日(月) Taga-Town-Project、おとくらプロジェクト、とよさと快蔵プロジェクト
- ▽11月26日(月) あづちーむ、  
かみおかべ古民家活用計画
- ▽12月3日(月) あかりんちゅ、能魅会
- ▽12月10日(月) スチューデント・キュレイターズ、  
DIG'S
- ▽12月17日(月) ななちよ!、未来看護塾
- ▽12月27日(木) ボランティアサークルHarmony、  
チーム・バンデイラ・ジ・オウロ
- ▽1月7日(月) 県大地域食育推進隊、  
とよさらだ、一姓
- ▽1月21日(月) 木興プロジェクト、  
たけとも -竹の会所 友の会-
- ▽1月28日(月) ほたてあかりプロジェクト
- ▽1月30日(木) cococu-おうみの暮らしかたろぐ-  
信・楽・人-shigaraki field gallery project-



事務局スタッフによるスピーチ



1回生を中心に約260人の学生が受講



Sプロジェクトあかりんちゅのスピーチ



日 時：2013年4月13日(土) 9:00~16:20

会 場：講義室 A3-301

2012年度の近江楽座採択プロジェクトの活動報告会を行いました。活動を今後にしっかり生かしていけるよう、会場から質疑・アドバイス等をいただくとともに、学外から2人のゲストをお呼びし、活動を客観的に評価していただきました。

当日は、チームのメンバー以外にも地域の方や指導教員、近江楽座の卒業生、他大学の学生、副専攻・近江学士の受講生など、100名以上の参加がありました。

#### <プログラム>

1. 挨拶・プログラム説明 (9:00~9:10)
2. 活動発表とディスカッション (9:10~16:20)
3. 全体総括 (16:20~16:30)

#### <活動助言者>

午前の部：パート1、パート2

○柴田雅美さん (NPO 法人 Links,  
滋賀大学特任准教授 (就業力支援事業))

午後の部：パート3、パート4

○上川七菜さん(半月舎舎主、元近江楽座事務局員)

#### Ⅰ はじめに

大田理事長から、近江楽座の活動で学生がどう成長していくかが楽しみであるという、ごあいさつをいただきました。

#### Ⅱ 活動発表とディスカッション

全23プロジェクトを活動内容に応じて、

- ・パート1：教育普及・発信
- ・パート2：共生社会・つながりづくり
- ・パート3：ものづくり・まちづくり支援
- ・パート4：交流・発掘・拠点づくり

の4つのテーマに分け、パートごとにチームからの発表とディスカッションを行いました。発表7分、質疑と地域の方からのコメント3分、ディスカッション約30分、発表とディスカッションの進行は近江楽座専門委員会の先生が担当しました。

#### ● パート1

各チームの発表に対して、「自治会の者だが、うちのような小規模な自治会でも、地域の活動に協力してもらえるのか」等、多くの質問が出ました。司会進行は、県大BASSER'S 指導教員の浦部美佐子先生。プロジェクトを継続していくための「工夫」などについて、各チームのメンバーから「活動(イベント等)ごとに報告書を作成し保管している」、「ノートやファイルなどに、何をしたか等を細かく書き込んで

いる。問題点や課題、改善策を次に残していけるようにしている」等の意見を引き出してもらいました。

アドバイザーの柴田さんは「地域に入って、これまで叱られた経験はあるのか?」と、問いかけられ「叱られることは期待されているひとつの象徴なので、叱られる位に地域に入って行ってほしい」というコメントを、地域の方からは「地域には取り組むテーマは多くある。どんどん地域に入って、地域を活性化してほしい」というメッセージを頂きました。

## ● パート2

司会進行は近江楽座専門委員会委員長の印南比呂志先生。チーム発表ではボランティアサークル Harmony の地域パートナー・メロディーの関係者の方から「10年かけて学生たちは結果を出してくれた。まず親が変わった。それから子ども達の兄弟が、すごく元気になった。学生さんが自然な形で関わってくれるのが、ありがたい」と感謝のコメントを頂きました。ディスカッションでは、リーダーシップをテーマに話し合いました。柴田さんからの質問に対して、「メンバーの一人ひとりとコミュニケーションをとって、個性を引き出す」、「まずは自分から動いて、手本をみせる」、「それぞれのメンバーが何をした

いのかをくみとり、また地域が求めていることを把握し、調整する」等、他のチームも参考になるような回答がありました。柴田さんからは「支えるリーダーというのが、最近の若い人には向いているのではないかと、また印南先生から「学生の本音が出てよかった」というコメントを頂きました。



大田理事長のあいさつ



チームメンバーに加え地域の方や指導教員、楽座の卒業生、近江学士の受講生が参加

### <活動報告会 グループ分け>

パート1 教育普及・発信 (9:10 ~ 10:40)	パート2 共生社会・つながりづくり (10:50 ~ 12:20)	パート3 ものづくり・まちづくり支援 (13:20 ~ 14:50)	パート4 交流・発掘・拠点づくり (15:00 ~ 16:20)
あかりんちゅ	とよさただ	木興プロジェクト	Taga-Town-Project
滋賀県大 BASSER'S	ボランティアサークル Harmony	あづちーむ	DIG'S
葉の花エネルギー	一姓(いっしょう)	ほたてあかりプロジェクト	おとくらプロジェクト
cococu -おうちの暮らしがたろぐ-	チーム・バンディラ・ジ・オウロ	未来看護塾	かみおかべ古民家活用計画
スチューデント・キュレーターズ	ななちょ!	とよさと快蔵プロジェクト	信・楽・人-shigaraki field gallery project-
県大地域食育推進隊	—	たけとも一竹の会 友の会	能魅会(のみかい)

### ● パート3

司会進行は未来看護塾指導教員の伊丹君和先生。チーム発表では、未来看護塾の活動に対して、「1、2回生が主体なのに、高いモチベーションを持って活動できている。何故がんばって活動ができるのか？」などの質問が出され、「将来の目標、夢を持って活動している。それぞれの学生が今しか経験できないと考えて活動している。それが大きい」など、それぞれのチームが目指す目標などについて意見交換が行われました。

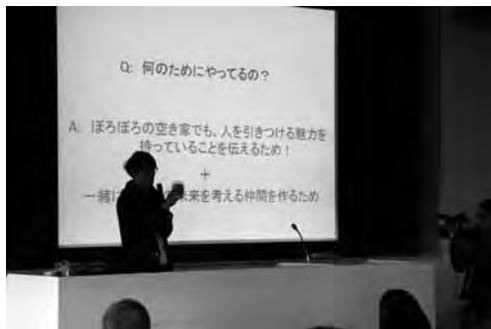
ディスカッションでは、「つくり上げたモノを如何に活用していくか」等について話し合いました。空き家や建物を活用しているチームからは、「将来的に、地域の人たちに使ってもらって、管理運営もしていただく。学生はそれを手伝うというのが目標であり、理想」というような意見が出されました。

学生たちが日々の活動の中で、イベントや様々な企画を考えている、その先の「思い」や「伝えたいこと」がよく伝わってきた印象がありました。アドバイザーの上川さんからは各チームに対して具体的な活動アドバイスを頂きました。

### ● パート4

司会進行は、ほたてあかりプロジェクト指導教員の鶴飼修先生。ディスカッションでは、活動を続けていくことで地域に浸透していく。ミッションの共有はどのようにしているのか、という先生の投げかけに対して、「月2回の定例会議で」、「メールだけでは情報共有は難しい。直接会って、伝える」、「昼休みにみんなで顔を合わせる会議を開催。みんなで活動することで、モチベーションが高まってくる」など意見交換が行われました。出席できないメンバーへの伝達手段としては、メーリングリストやSNSを

使っているチームがほとんどでしたが、各チームとも情報共有には悩んでおり、様々な工夫や試行錯誤をしているようです。上川さんからは、「私はお店を開いて、何をしたいのか。常に自分に問いかけている。カフェをして何がしたいのが大事。みんなで共有するというのが、ミッションの共有になる。そういう議論を集まってしてもらったほうがいい」と助言を頂きました。



パート毎のチーム発表の様子

## Ⅰ 全体総括

### ○大田理事長

みなさんは地域に出て活動する中で、課題にぶつかって、その課題をどう解決していくか、苦労されている。それは非常にいいことだと思う。出てきた課題に対して、色々な解決の仕方を実践し、ひとつひとつ克服していくなかで、非常な進歩があった。これは大学の教室の中では学べないこと。このような発表会を地域で行って、地域の人たちに返していくこともこれから考えていかないといけない。

### ○印南先生（近江楽座専門委員会 委員長）

成果発表会をいつも楽しみにしている。毎年違う学生たちが自分たちの課題にぶつかる経験をする。大学の中で課題を自分たちで見つけることはすごく難しい。

近江楽座が今年で10年を迎える。長くやってきているが、「私たちがこれだけやっていますよ」と、あまり広告していない。地道にやっているこのスケール感がものすごく好きです。

地域の人たちと交流していくことについて、学生たちも、やがては地域の人間になっていくので、客観的に見ながら活動してほしい。その学生を受け入れてくれる地域に私たちも入っていきたい。

### ○稲葉結実（H22～24年度近江楽座事務局職員）

近江楽座はいろんな人が関わってできる、おもしろい活動だと思う。これからも楽座の活動を通して、いろんなことをどんどん学んでいってほしい。

#### 成果報告会を終えて

異なるフィールドとスタイルで活動してきたチームは、それぞれの色が感じられました。この報告会では学生たちを受け入れて下さっている地域関係者の方々が聞きに来てくださいました。各チーム

の発表後には激励や今後の活動への期待の声がかげられました。

近江楽座の「学生も 大学も 地域も、いっしょに育つ」というコンセプトがありますが、参加者全員がそれを実感できるような、温かく和やかな雰囲気での報告会となりました。



ディスカッションでは、各プロジェクトチームの学生だけでなく、第1部にゲストの柴田さん（写真右）、第2部には上川さん（写真左）に活動助言者として入って頂き、さらに議論を深めました。



各パートの後に行われたディスカッションの様子

## | 活動成果展示会

日 時：2013年4月13日(土)～19日(金)

9:00～16:30

会 場：滋賀県立大学 交流センターホワイエ

各チームが活動を新聞形式にまとめた「活動報告新聞」や制作物、印刷物などを活動報告会と同時期に展示しました。活動報告会とは日程・会場が異なりますが、発表では伝えきれない活動の成果をパネルにしました。



各チームによる展示の様子

## 4 学生有志活動

## 4-1 近江楽座 合同説明会



“近江楽座や近江楽座チームを県大生に知ってもらおう!”、“活動に興味を持ってもらおう!”ということで、近江楽座学生委員会による春のイベントとして「近江楽座プレ説明会」と「近江楽座合同説明会」を企画しました。また、入学式後の「クラブ紹介」に有志チームが参加しました。



「クラブ紹介」では有志 12 チームの共同ブースを出展

### Ⅰ クラブ紹介 参加

日 時：2012 年 4 月 5 日 (木) 入学式後  
会 場：センター広場

湖風祭実行委員会主催の「クラブ紹介」は入学式後の新入生を勧誘するイベントです。楽座からは有志12チームが参加し共同ブースを出展。出来たてのパンフレットを配り、新入生に声をかけました。

### Ⅱ 近江楽座プレ説明会

日 時：2012 年 4 月 17 日 (火), 18 日 (水)  
12:30~13:00  
会 場：講義室 A2-202

“近江楽座ってなに?”という疑問を解決するため、プレ説明会を開催しました。まず、学生委員会の久保晃くんが近江楽座について説明した後、2日間で9チームの学生が活動体験談を発表しました。

17日(1日目)

- ・あかりんちゅ (福川萌子さん)
- ・とよさと快蔵プロジェクト (中西政文くん)
- ・Taga-Town-Project (藤原舞子さん)
- ・とよさらだプロジェクト (岩井美咲子さん)

18日(2日目)

- ・県大 BASSER'S (曾我部共生くん)
- ・ななちょ! (廣嶋泉さん、篠田佳奈さん)
- ・信・楽・人 (西出彩さん)
- ・DIG'S (中本梨紗子さん、杉野仁美さん)
- ・一姓 (川渕衣里子さん)



活動体験談をスピーチ

## ｜ 近江楽座合同説明会

日 時：2012年4月19日(木) 16:30~19:00

会 場：滋賀県立大学交流センター

開催内容：

- ブース相談会
- あかりんちゅキャンドルナイト 同時開催
- 2011年度の全チーム活動報告新聞の展示

有志 11 チームがブースを出し、訪れてきてくれた  
 新入生や在学生に、活動の説明をしました。

<参加団体>

- ・一姓
- ・とよさと快蔵プロジェクト
- ・信・楽・人
- ・ななちよ!
- ・能魅会
- ・Taga-Town-Project
- ・あかりんちゅ
- ・DIG'S
- ・とよさらだプロジェクト
- ・県大 BASSER'S
- ・おとくらプロジェクト



説明会全体の様子



チームごとに特色のあるブース（能魅会）



活動説明（信楽人）



新規応募を検討中の上岡部民家再生プロジェクトも参加！



あかりんちゅのキャンドルナイト

## 4-2 近江楽座学生委員会

### | 学生委員会とは

近江楽座をさらに推進していくために、チーム間の交流・連携を目的として発足した有志学生による組織です。2006年に、当時のプロジェクトチームの代表経験者が中心となり結成されました。学部・学科・プロジェクトの枠を超えて活動の輪を広げ、地域活性化に貢献するためのネットワーク形成目指し、学生ならではの視点で近江楽座をサポートしています。

2012年度の学生委員会は、交流会の開催や近江楽座合同説明会の企画をしました。

### | チーム間交流会「ゾロゾロ会」

「ゾロゾロ会」とは、チーム間の交流を主な目的として、2009年度に始まった取り組みです。2012年度は1回開催しました。

○第14回ゾロゾロ会 たこ焼きパーティ

日 時：2012年7月5日(木)

会 場：環境棟談話室1

今回は、ただの交流の場ではなく「近江楽座で活動を始めたばかりの1回生に近江楽座の楽しさをもっと知ってもらおう!」というテーマを設けました。題して「最高に楽しかった一瞬プレゼン!」近江楽座の6チームの2・3回生メンバーから、今まで楽座で活動してきた中で一番楽しかった瞬間の写真を紹介しました。他のチームのメンバーがどんなことに魅力を感じて活動しているのか少し知ってもらえる機会となりました。



ウィンナーとタコ入り



学生委員会から企画の説明



チームの代表が活動で楽しかったエピソードを紹介



他のチームのメンバーの話は新鮮だったり共感したり

## 5 他大学、団体との交流

## 5-1

## 皇太子殿下御視察

日 時：2012年7月23日(月)午後

場 所：滋賀県立大学交流センター

皇太子殿下が、本県において開催された第48回献血運動推進全国大会に出席されるため、行啓になり、滋賀県立大学の近江楽座の取り組みを御視察されました。

大田啓一理事長・学長による本学のご説明に続いて、印南比呂志人間文化学部教授がプログラム全体の概要をご説明致しました。次に「とよさらだプロジェクト」、「木興プロジェクト」、「あかりんちゅ」、「とよさと快蔵プロジェクト」、「菜の花エネルギー」、「未来看護塾」(発表順)の6チームの学生が、各チーム5分ずつ全体で40分ほどにわたって、直接、殿下に活動内容をご報告致しました。

殿下は「活動していて何が一番、楽しかったですか?」、「子どもたちとキャンドルづくり教室を実施して、どうでしたか?」、「改修作業をする上で、注意している点はどのようなことですか?」などプロジェクトでの苦勞した点など多くのご質問をされ、優しく微笑みながら学生たちの話を聞いて下さいました。学生たちにとって、また本学・近江楽座にとって、大きな励みとなる、ありがたいお言葉をたくさん頂きました。



大田理事長・学長による大学概要説明



学生による活動報告(とよさらだプロジェクト)



印南比呂志教授による近江楽座説明

## 5-2 「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」

### 内閣府特命大臣表彰を受賞

日 時：2012年11月21日(水)

会 場：総理大臣官邸大ホール

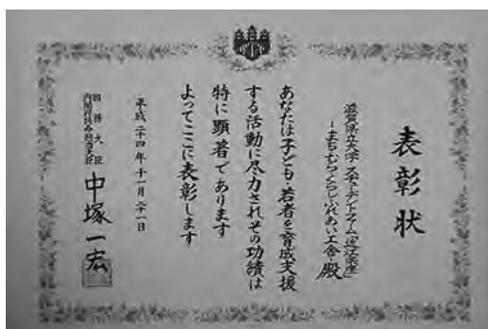
受賞内容：

○子ども若者育成・子育て支援功労者表彰  
 <子ども・若者育成支援部門> (内閣府特命大臣表彰)  
 滋賀県立大学「スチューデントファーム」  
 「近江楽座」  
 「まち・むら・くらしふれあい工舎」

内閣府では、子ども・若者の健やかな成長に資することを目的に、子ども・若者を育成支援する活動および子育てと子育てを担う家族を支援する活動に取り組み顕著な功績があった企業、団体または個人を内閣府総理大臣および内閣府特命担当大臣から表彰しています。

平成24年度において、本学の「近江楽座」の活動が、滋賀県から推薦を受け、内閣府特命大臣表彰(子ども・若者育成支援部門)を受賞し、総理大臣官邸において表彰式が行われ、大田理事長が表彰式に出席しました。

(内閣府ホームページ参照 URL : <http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/support/h24/index.html>)



日 時：2013年1月16日(水) 10:00~13:30

会 場：滋賀県立大学 交流センター研修室

目 的：

就職難で萎縮しがちな韓国の若者達にグローバルな広い視野を身につけてもらうため、また、この機会に日韓交流や若者の育成にも繋げていきたいという意図で企画されました。

交流内容：

- 「バンディラ・ジ・オウロ」の活動について
- 地域文化学科の取り組み『長浜曳山まつりの舞台裏』の発行について
- 「滋賀県大 BASSER'S」の活動について
- 「能魅会」の活動について
- 質疑応答

延世大学校社会科学大学の学生・教員19名が県立大学を訪れ、近江楽座のチームの学生との交流の場を持ちました。

みなさんは6日間かけて滋賀県内の施設や取り組みを見学されており、その中で近江楽座の学生と交流する時間をいただき、短い時間でしたが活動の紹介等を行いました。頷いたり驚いたり、様々な反応を返しながらとても興味深そうに発表を聞いてくださいました。

チームに対する質問では、「韓国でカフェをしているが、なかなか人を集めるのが難しい。どうしたら人が来てくれる?」「日本の子どもたちには、クラスメイトの外国の子どもに対する先入観はある?」等、韓国の現状と比較しての内容や、「単位がでないのにどうして活動を続けているの?」「活動をして一番難しいと思うことは?」といった、メンバーが活動を通してどんなことを得ているのかについて

等、活発に質問がされました。活動紹介のあとは、参加者全員で昼食をとり、交流を深めました。



プロジェクトチームの活動説明 (BASSER'S)



質疑応答の様子



昼食を一緒にとりながらの交流

## 5-4 その他

### 彦根総合高校での近江楽座の活動紹介

日 時：2013年1月8日(火) 5限  
13:00~13:45 6限 13:55~14:40  
場 所：彦根総合高等学校  
対 象：選択科目「ヒューマンボランティア」と  
「地域ボランティア」を履修する3年生45名  
(当日の出席者41名)

紹介内容：

- 近江楽座の取り組みについて(事務局)
- 「バンディアラ・ジ・オウロ」の活動について
- 「菜の花エネルギー」の活動について
- 「とよさと快蔵プロジェクト」の活動について

彦根総合高校から依頼を受け、同校の生徒を対象に近江楽座の取り組みおよびチームの活動紹介を行いました。それぞれ約20分ずつ発表し、質疑応答を行いました。



彦根総合高等学校へ出張授業の様子

### 滋賀県生涯学習フォーラム・シンポジウムへの参加

「社会教育を通じた人づくり」

日 時：2013年1月30日(水) 13:30~16:45  
場 所：滋賀県庁東館7階大会議室  
主 催：滋賀県社会教育研究会、  
滋賀大学社会連携研究センター  
後 援：滋賀県教育委員会、滋賀県社会教育連絡  
協議会、滋賀県公民館連絡協議会

内 容：

○基調講演  
大阪青山大学 教授・滋賀大学 名誉教授 住岡英毅

○シンポジウム  
コーディネーター：  
滋賀大学社会連携研究センター 梅田修

パネラー：

滋賀県立大学 地域づくり教育研究センター・  
近江楽座事務局 稲葉結実  
草津市教育委員会事務局 生涯学習課 清水孝平  
大阪青山大学 教授・滋賀大学 名誉教授 住岡英毅

滋賀県社会教育研究会から依頼を受け、平成24年度の生涯学習フォーラム・シンポジウムに事務局の稲葉が参加し、近江楽座の取り組みについて報告を行い、ディスカッションに参加しました。





**情報発信**

## 6-1 ホームページ、リーフレット

### 近江楽座ホームページの運営

滋賀県立大学における、学生の地域活動に関するポータルサイトである近江楽座ホームページの運営を行っています。学生たちの日々の活動の様子をより多くの方にみてもらえるサイトにカスタマイズするため、リニューアルを行いました。

#### <リニューアル内容>

- 「プロジェクト紹介」ページへの活動マップ表示機能を追加しました。各チームの活動地をひと目でわかりやすく伝えられるように変更しました。
- 「これまでの活動」ページに、各年度ごとの内容に移動できるサイドメニューを追加しました。
- 近江楽座の facebook ページを開設しました。



近江楽座ホームページ (<http://ohmirakuza.net>)

### 活動紹介リーフレット2012

近江楽座プロジェクトで活動する学生に依頼し、近江楽座全体の取り組みや、本年度近江楽座に採択された23プロジェクトを写真入りで紹介するリーフレットを作成しました。



近江楽座活動紹介リーフレット2012

## 6-2 広報ビデオの制作

新入生や、まだ近江楽座に入ったことのない学生に向けて、学生たちの実際に活動している雰囲気を知ってもらうため広報ビデオを制作しました。近江楽座の目標やしくみの解説、各プロジェクトの活動風景、学生へのインタビュー、試行錯誤を繰り返しながら学び成長していく学生たちの様子を紹介しています。地域の方からのメッセージや近江楽座専門委員会委員長の印南先生のコメントも収録しています。

この映像は本学の紹介映像の中の『地域に学ぶ「近江楽座」』というタイトルで、大学ホームページ（広報 キャンパス MOVIE <http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/movie.html>）からご覧頂けます。



HOME>大学インフォメーション>広報>キャンパスMOVIE  
>5.地域に学ぶ「近江楽座」編(6分11秒)



広報ビデオのインタビューなどの様子



## 7 付録

## 7-1 プログラム推進メンバー※

事業推進代表者

滋賀県立大学理事長 大田啓一

事業推進責任者

近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

近江楽座専門委員会

環境科学部

浦部美佐子

柴田裕希

松岡拓公雄

村上修一

迫田正美

杉浦省三

工学部

河崎澄

柳澤淳一

人間文化学部

濱崎一志

石川慎治

印南比呂志

佐々木一泰

細馬宏通

人間看護学部

伊丹君和

本田可奈子

全学共通教育推進機構

鵜飼修

地域づくり教育研究センター

森川稔

近江楽座事務局

秦憲志

稲葉結実

竹村香織

※ 2012 年度 (平成 25 年 3 月末時点)

このほか、近江楽座に関わり支援いただいたすべての方にお礼申し上げます。



## 7-2 メディア掲載一覧

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
1	2012.6.17	県大地域食育推進隊	中日新聞	食育フェアでの骨密度測定について
2	2012.10.8	県大地域食育推進隊	FM 彦根	彦根工業高校の放送部からのインタビュー (食育推進隊・nakaniwacafe)
3	2012.4.4	あかりんちゅ	京都新聞 @キャンパス	廃ろうそくでキャンドルナイト
4	2012.6.20	あかりんちゅ	M・O・H通信	環境問題と地域貢献を通して新時代の扉を開く人材の育成
5	2012.7.24	あかりんちゅ	朝日新聞	皇太子さまご来校。活動のご説明に関して。
6	2012.10.10	あかりんちゅ	FM ひこね	彦根 FM クラブ「近江楽座 活動紹介」
7	2012.10.22	あかりんちゅ	FMひこね	この人に会いたい
8	2013.3.9	あかりんちゅ	滋賀彦根新聞	「皆さんと共に祈りたい」 護国神社でキャンドルナイト
9	2013.3.6.12	あかりんちゅ	読売新聞	3.11 キャンドルナイトの告知と 当日の活動記事
10	2013.3.12	あかりんちゅ	中日新聞	3.11 キャンドルナイト当日の活動記事
11	2013.3.11	あかりんちゅ	びわこ放送	3.11 キャンドルナイト当日の活動の様子
12	2012.10.9	滋賀県大 BASSER'S	FM ひこね	彦根 FM クラブ「近江楽座 活動紹介」
13	2013.1.5	滋賀県大 BASSER'S	中日新聞 びわこ版	湖と歩み湖を支える。 釣りイベントで問題提起
14	2013.3.2	菜の花エネルギー	毎日新聞	第 68 回びわ湖毎日マラソン環境キャンペーン びわ湖環境ふれあいテント村 母なる湖に会いに行こう「手のひら発電」
15	2012.5.11	cococu- おうみの暮らし かたろぐ-	中日新聞 びわこ版	地域誌「cococu」静かな人気
16	2013.1.11	cococu- おうみの暮らし かたろぐ-	朝日新聞 東京版	ミニコミ誌で知る故郷
17	2012.5.26	Taga-Town-Project	中日新聞 びわこ版	学生団体が本を通して地域交流
18	2013.1.16	Taga-Town-Project	中日新聞 びわこ版	映画会の告知
19	2012.4- 2013.3	Taga-Town-Project	多賀町有線放送 (毎月第4金曜日 6:40 ~ 7:00)	「TTP TIME」
20	2012.5.27	とよさらだ	日本農業新聞 近畿・北陸版	農業実践で地域活性
21	2012.7.24	とよさらだ	中日新聞	皇太子殿下に活動内容を説明
22	2012.12.13	とよさらだ	FMひこね pm tunes	とよさらだプロジェクトについて
23	2012.4.4	DIG'S	京都新聞 @キャンパス	ヴォーリス建築 児童と歩く
24	2012.11.29	木興プロジェクト	京都新聞	地域貢献たたえ 京都新聞大賞 11 人、4 団体に
25	2013.7. 出版	木興プロジェクト	トウキョウ建築コレク ション 2013	活動報告、プレゼン
26	2012.12.22	ボランティアサークル Harmony	毎日新聞	クリスマス会☆親子 30 組楽しむ
27	2012.12.23	ボランティアサークル Harmony	中日新聞	仲良くギョーザ作り県立大 障害児と学生が交流
28	2012.9.13	スチューデント・キュレイ ターズ	近江毎夕新聞	湖北のシャガリを紹介 28日まで曳山博物館 で企画展

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
29	2012.9.16	スチューデント・キュレイトーズ	毎日新聞	曳山ジャギリ展：湖北、お囃子の歴史 太鼓や鉦67点
30	2012.4.5	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	高宮神社太鼓おわたり神事
31	2012.4.17	おとくらプロジェクト	中日新聞	個性的な抽象画 真野さん作品集
32	2012.4.19	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	宇宙のエネルギー感じて
33	2012.4.28	おとくらプロジェクト	しが彦根新聞	「宇宙幼虫」など独特
34	2012.5.31	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	高宮太鼓祭のフォト作品展
35	2012.6.25	おとくらプロジェクト	中日新聞	高宮太鼓祭の勢い写す
36	2012.7.2	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	岡田健太郎のピアノライブ
37	2012.7.28	おとくらプロジェクト	さざなみ通信	「花と樹の風景 65」松田徳子 みねしまよしえ 二人展
38	2012.8.22	おとくらプロジェクト	しが彦根新聞	高宮で女性二人展
39	2012.9.2	おとくらプロジェクト	中日新聞	木製おもちゃ独創的に
40	2012.9.12	おとくらプロジェクト	しが彦根新聞	滋大のカフェと県大のおもちゃ
41	2012.9.14	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	ユニークな木製玩具 9種
42	2012.9.21	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	mansi 氏のピアノ弾き語り
43	2012.9.22	おとくらプロジェクト	しが彦根新聞	鳥居本駅 旧豊小 旧日夏町役場
44	2012.9.24	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	国有形文化財に市内 6 件
45	2012.9.25	おとくらプロジェクト	中日新聞	地域と共に喫茶 3 周年
46	2012.10.11	おとくらプロジェクト	近江同盟新聞	高宮おとくらで「引き札展」開催
47	2012.10.12	おとくらプロジェクト	FM ひこね	彦根 FM クラブ「近江楽座 活動紹介」
48	2012.11.29	おとくらプロジェクト	朝日新聞	今津の地域活性化策 県立大生が提案
49	2012.12.11	おとくらプロジェクト	中日新聞	思いを込めて絵手紙
50	2013.2.21	おとくらプロジェクト	NHK 大津 おうみ 610	週刊ガッコウ通信
51	2012.4.1	かみおかべ	びいめ〜	春のみなひこ(南彦根)に、みな行こっ!?
52	2012.9.22	ほたてあかりプロジェクト	山陽新聞	宮城県田の浦でほたてあかりプロジェクト
53	2012.11.28	ほたてあかりプロジェクト	FM ひこね	ほたてあかり紹介
54	2013.3.10	ほたてあかりプロジェクト	京都新聞	南三陸復興照らそう
55	2013.3.11	ほたてあかりプロジェクト	宮城テレビ放送	3.11 田の浦キャンドルナイト
56	2013.3.11	ほたてあかりプロジェクト	NHK ニュースゼロ	3.11 田の浦キャンドルナイト
57	2012.7.24	未来看護塾	読売新聞	皇太子殿下滋賀県立大学ご視察。活動発表。
58	2013.1.31	未来看護塾	県大 jiman 12 号	未来看護塾の湖風祭の活動の様子
59	2012.6.2	とよさと快蔵プロジェクト	MBS テレビ	住人十色 学生たちが古民家再生! 地域とつながるシェアハウス
60	2012.7.24	とよさと快蔵プロジェクト	読売新聞	皇太子さま「温かい出迎え、うれしい」きょう献血大会出席 2年ぶりの湖国で交流
61	2012.11.9	とよさと快蔵プロジェクト	京都新聞	「レトロ市」豊郷で県立大生
62	2013.1.25	とよさと快蔵プロジェクト	こんきくらぶ 2月号	表紙 / 改修内容紹介
63	2013.3.9	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞	空き家の活用考えて 豊郷で 10 日県立大生ワークショップ開催
64	2012.11.27	たけとも - 竹の会所 友の会 -	京都新聞	京都新聞大賞 復興の拠点 学生自ら建設

No	日時	チーム	メディア・団体	見出し・視察内容
65	2012.5.12	能魅会 (のみかい)	Redio Sweet	『ホップステップのとがわ』
66	2012.6.2	能魅会 (のみかい)	Redio Sweet	『ホップステップのとがわ』
67	2012.6.28	能魅会 (のみかい)	オウミタイムス	ラリルレトロカフェ
68	2012.7.17	能魅会 (のみかい)	Redio Sweet	『ホップステップのとがわ』
69	2012.7.30	能魅会 (のみかい)	中日新聞	地域とつながり実感
70	2012.8.15	能魅会 (のみかい)	Redio Sweet	『ホップステップのとがわ』
70	2012.8.26	能魅会 (のみかい)	MOH 通信	未来創成「私たちが変える」
71	2012.10.13	能魅会 (のみかい)	Redio Sweet	『ホップステップのとがわ』
72	2012.10.14	能魅会 (のみかい)	FM ひこね	彦根 FM クラブ「近江楽座 活動紹介」
73	2012.11.10	能魅会 (のみかい)	Redio Sweet	『ホップステップのとがわ』
74	2012.12.22	能魅会 (のみかい)	びわこ放送	ラリルレトロカフェ
75	2012.4.15	近江楽座	中日新聞	「近江楽座」の活動 県立大生振り返る
76	2012.4.15	近江楽座	京都新聞	古民家改修や被災地支援 活性化取り組み 報告 県立大、学生らの近江楽座
77	2012.5.20	近江楽座	中日新聞	地域貢献の計画を発表 県立大「近江楽座」で27組
78	2012.7.3	近江楽座	毎日新聞	皇太子さま来県 公式では17年ぶり(県立大学にて学生の地域活動の取り組み説明)
79	2012.7.3	近江楽座	中日新聞	皇太子さま来県へ(県立大学にて学生の地域活動の取り組み説明)
80	2012.7.3	近江楽座	読売新聞	皇太子さま2年ぶり来県(県立大学にて学生の地域活動の取り組み説明)
81	2012.7.7	近江楽座	しが彦根新聞	皇太子殿下 滋賀へ(県立大学にて学生の地域活動の取り組み説明)
82	2012.7.24	近江楽座	中日新聞	皇太子さまご来県 熱く歓迎(近江楽座説明)
83	2012.7.24	近江楽座	中日新聞 社会面	皇太子さま滋賀入り(近江楽座説明)
84	2012.7.24	近江楽座	朝日新聞	皇太子さま来県 県立大など見学
85	2012.7.24	近江楽座	京都新聞	皇太子さま笑顔(近江楽座説明)
86	2012.7.24	近江楽座	読売新聞	皇太子さま滋賀入り(近江楽座説明)
87	2012.7.24	近江楽座	毎日新聞	皇太子さま金堂散策(近江楽座説明)
88	2012.7.24	近江楽座	しが彦根新聞	皇太子殿下がご訪問(近江楽座説明)
89	2012.7.24	近江楽座	産経新聞	皇太子さまご来県(近江楽座説明)
90	2012.10.17-19	近江楽座(事務局、学生委員会、印南座長)	FM ひこね	彦根 FM クラブ「近江楽座 活動、事業紹介」
91	2013.1	近江楽座	内閣府	「平成24年度 子ども若者育成・子育て支援活動 青少年社会貢献活動 活動の紹介」
92	2013.6	近江楽座	滋賀大学	「滋賀大学社会連携研究センター報 no.1」シンポジウム 社会教育を通じた人づくり 報告1:近江楽座の取り組み

公立大学法人 滋賀県立大学  
スチューデントファーム「近江楽座」  
まち・むら・くらしふれあい工舎

## 2012 年度活動報告書

平成 25 年 12 月発行

発行	公立大学法人 滋賀県立大学 地域共生センター 〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 TEL. 0749-28-8616 FAX. 0749-28-8473
企画・編集	近江楽座事務局
印刷・製本	近江印刷株式会社
構成・デザイン	角真央

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

最新情報は、近江楽座ホームページ：<http://ohmirakuza.net> をぜひご覧ください